

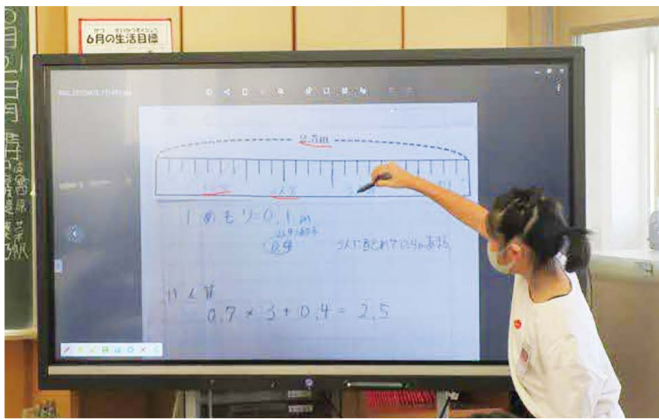


FUKUOKA

ICTを活用した学びの個別最適化を目指して



東峰村立東峰小学校・東峰中学校



筑後市立松原小学校

CONTENTS

教育の広場

コロナ禍、ピンチだ！チャンスだ！
一般社団法人 子ども未来・スポーツ社会文化研究所代表
京都教育大学・関西大学 名誉教授 杉本 厚夫 …… 1

特集

令和3年度 教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況についての
点検及び評価 (令和2年度対象) の概要 [総務企画課] …… 3
令和3年度 全国学力・学習状況調査の結果概要について [義務教育課] …… 8

社会教育情報

来館者に学びとワクワクを一まちづくりの拠点施設として
福智町図書館・歴史資料館 ふくちのち [福智町図書館・歴史資料館] …… 10

県立学校の特色ある取組

地域にとって「頼りになる、そして、なくてはならない存在」の
人財育成拠点 [福岡県立山門高等学校] …… 12

令和元・2・3年度福岡県重点課題研究指定・委嘱事業研究

小・中9年間をつないで取り組む学力向上 [義務教育課] …… 14

特色ある学校教育活動

地域とつながり社会に開かれた学校を目指して
[福岡県立築城特別支援学校] …… 16

躍動する中・高校生

全国大会を振り返って [体育スポーツ健康課] …… 18

福岡教師塾について

志を立て、教育の未来をリードする 専門研修「福岡教師塾」について
[福岡県教育センター] …… 22

教育施設からの事業だより

いつでも、どこでも楽しめる！福岡県立図書館 [福岡県立図書館] …… 24
コロナ禍における体験活動事業の開発～「家族」を対象とした
キャンプ体験事業～ [福岡県立社会教育総合センター] …… 26

お知らせ

福岡県立社会教育総合センター／福岡県立少年自然の家「玄海の家」/
九州歴史資料館／福岡県青少年科学館 …… 28

九州歴史資料館 展示品 名選 No.52

[九州歴史資料館]

「教育福岡」はホームページ上で
見ることができます。

福岡県

検索

教育委員会 > 総務企画課 > 「教育福岡」をクリック

<九州ロゴマーク>

「九州の連携」を象徴し、
「九州はひとつ」を表現
しています。

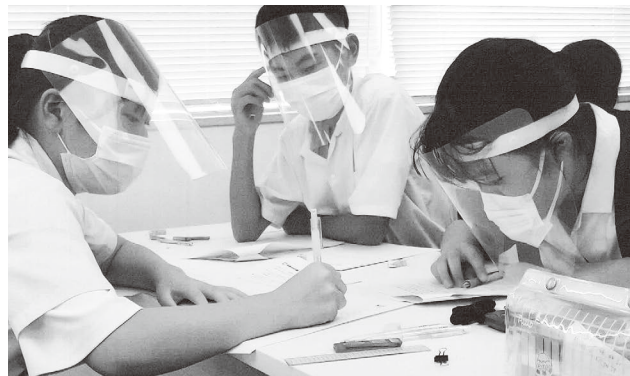


PHOTO NEWS

[フォトニュース]

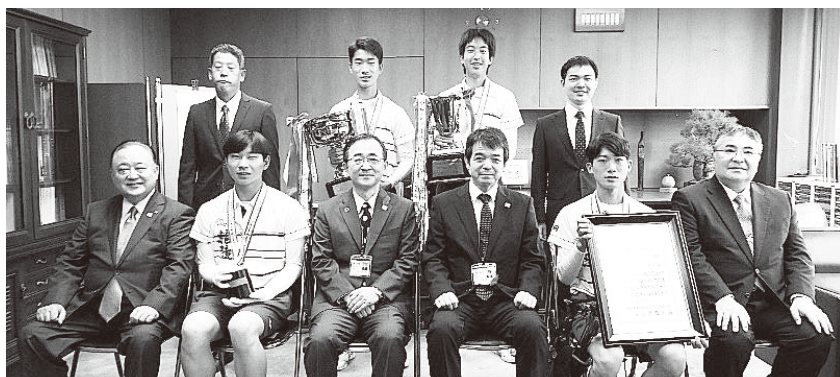
9/18 科学の甲子園ジュニア福岡県大会

令和3年度科学の甲子園ジュニア福岡県大会が中小企業振興センターで行われました。県内8地区での予選を勝ち抜いた12チームが理科、数学に関する筆記協議及び実技協議に挑みました。優勝、準優勝の2チームが12月に実施される全国大会へ出場します。



10/13 福岡県立柏陵高等学校アーチェリー部 教育長表敬

「全国高等学校総合体育大会アーチェリー競技大会 高円宮賜牌第54回全国高等学校アーチェリー選手権大会」の男子団体で、27年ぶり4回目の優勝を果たした福岡県立柏陵高等学校アーチェリー部の丸尾風瑛選手、原口大弥選手、興野拓夢選手、木村優斗選手が、吉田教育長を訪問し優勝報告を行いました。



今月の表紙「元気いっぱい子どもたち」

令和2・3・4年度重点課題研究指定・委嘱事業の取組（東峰村・筑後市）

本県の各市町村立（学校組合）小中学校では、GIGAスクール構想に基づき、令和2年度中に1人1台端末及び高速通信環境が整備され、ICTを活用した学習活動が展開されています。

東峰村立東峰小学校・東峰中学校、筑後市立松原小学校は、令和2・3・4年度福岡県重点課題研究指定・委嘱事業の研究校として「学びの個別最適化を実現する教育活動」について、ICTを活用した、学習評価及び進捗や能力に応じた授業改善の実践的研究を行っています。

それぞれの学校で、ICTでデジタル化された学習履歴である「スタディ・ログ」を用いることで、いかにして児童生徒に学び方や学習内容の定着度を自覚させ、それを授業改善にいかしていくかという視点を大切に取り組んでいます。

各研究校では、ICTを活用して生き生きと学習に取り組む児童生徒の姿が見られています。

今後、中間報告会等の機会を通じて、研究の成果を広く地域の学校に普及啓発していきます。

コロナ禍、ピンチだ！チャンスだ！

一般社団法人子ども未来・スポーツ社会文化研究所代表
京都教育大学・関西大学名誉教授

杉本厚夫

子どもたちの未来は？

分数の計算ができない子に先生が一言。「これができないと、中学校に行ったら困るよ」。はつと気が付きました。私は、この子の未来を中学生までしか考えていないと。

では、子どもたちの未来に向けて、教育はどうあったらいいのでしょうか？

OECDは、未来の教育の方向性について「ラーニング・コンパス2030」を発表し、子どもたちに必要なコンピテンシー（能力）として、新たな価値を創造する力（Creating new value）、対立やジレンマを克服する力（Reconciling tension and dilemmas）、責任ある行動をとる力（Taking responsibility）をあげています。この羅針盤で教育の未来の航海に出てみましょう。

新たな価値を創造する力って？

「先生、なんで運動会をするの？」「毎年やっているから」。こんなふうに答えると、チコちゃんに「ポーッと生きてんじやねーよ！」と叱られますよ。

学校行事で運動会はするものだと思っていたので、このコロナ

禍で、どうすればできるかという方法ばかり考えていたそうです。このように、これまでの学校行事は自明なものとして、その目的を見直すことはなかったようです。

千代田区立麹町中学校では、運動会の目的から見直し、子どもたちに任せて、「全員が運動を楽しむ」という新たな運動会を創り出しました（工藤勇一『学校の「当たり前」をやめた』時事通信社、2018年）。

新たな価値の創造は、大人より子どもの方がはるかに能力が高いのです。なぜなら、過去の経験やこだわりが少なく、日々、心身とも新たな自分を創造（成長）して、社会に適用しようとしているからです。だから、コロナ禍で新たな生活様式を子どもたちは受け入れ、楽しんでるように見えます。

また体育は、音楽や美術と同じように正解がありません。だから、過去にこだわることなく、常に新たな試みができるのです。固定概念を捨て、子どもを信じ、任せることで、新たな価値を創造する力が育ちます。

対立やジレンマを克服する力って？

道路で子どもたちが遊んでいました。そこに、車が入ってきました。それを見て、あなたはなんて声をかけますか？

「危ない!」、それとも「車が来たよ」

「危ない!」と声をかけたら、子どもたちは車も見ずに端に寄ります。「車が来たよ」と言われたら、車を見て、危ないかどうかを自分で判断して、回避します。

つまり、対立やジレンマの状況に置かれたとき、自ら情報を集めて、自分の行動を自己決定することが大切です。

コロナ禍で、2020年の高校野球は、夏の甲子園がなくなることから、各地域で大会を催すことになりました。その時、北海道奥尻島の奥尻高校は、島の人たちにコロナを持ち込むことは良くないとして参加を辞退したのです。

自分たちのしたいことよりも、集団の健康 (Well-Being) から当事者意識をもって話し合い、自ら意思決定をしたことで、対立やジレンマを克服する力を発揮しました。

日常的には、グループ学習等を導入することで、子どもたちが当事者意識をもって意見を出し合い、決定していく経験を積み、対立やジレンマを克服する力を身につけることができます。

責任ある行動をとる力って?

鉄棒の逆上がりがなかなかできない子がいました。昼休みも返上して練習し、その甲斐あって逆上がりができました。先生のところに喜んで報告に行きました。「先生、逆上がりができました」「そうか、よかったな」「先生、これでもう逆上がりがしなくても良いですね。鉄棒から逃れられる」と言いました。

「できるできない」の結果に拘っていた先生は愕然としました。本当は、できること (結果) ではなく、できるまでに何をしたらか (過程) が大切なんだと気づいたそうです。

2015年のラグビーワールドカップで、日本は南アフリカに逆転勝利しました。終了間際に獲得したペナルティーで、ヘッド

コーチからの指示は、「同点を狙ってペナルティーゴールの3点を獲れ」でした。しかし、選手たちはその指示に従わず、逆転の可能性があるトライの5点を狙ってスクラムを選択しました。そして、見事にトライを成功させ、歴史的勝利をもぎとったのです。たとえば、トライが成功しなくても、その勇氣ある行為は世界中で称賛されました。

また、内田樹氏は、意思決定における上意下達は、指示に従っていれば共同体の責任を自分でとらなくてもよく、自分のことしか考えられない、今しか考えられない人間をつくり出してきたと言います (内田樹『サル化する社会』文藝春秋社、2020年)。

本来「責任 (Responsibility)」とは、対応 (Response) 策を講じることができる (ability) という意味です。だから責任ある行動とは、できなかった結果を責められることなく、その時、新たな対応行動を自らの意思決定によってとろうとする過程のことです。

体育は、常に変化する状況にどう対応するかの連続なので、責任ある行動を学ぶのに最適です。

コロナ禍は、ピンチ?、チャンス?

コロナ禍、洪水、山火事などの自然災害。われわれの生存危機の前兆現象が起きています。

これまでの教育は、今の社会に適応できる人を育ててきました。が、これからは、生存のために未来の社会を創っていく力を培っていく必要があります。そのために、OECDは「教育の目標や方法を根本的に見直す必要がある」と教育の構造変容を示唆しています。

コロナ禍というピンチを、教育改革のチャンスととらえ、手遅れにならないうちに、それに着手する勇氣を持ちたいものです。

特集

令和3年度 教育委員会の権限に属する事務の管理及び
執行状況についての点検及び評価(令和2年度対象)の概要

総務企画課

この度、県教育委員会は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条の規定により、令和3年度教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況についての点検及び評価(令和2年度対象)を実施し、報告書にまとめ、9月県議会に提出しました。
ここでは、報告書の概要を紹介いたします。

教育委員会の活動状況

1 主な活動実績

- (1)教育委員会会議(委員協議会)開催実績
・定例会を11回、臨時会を9回、委員協議会を17回開催しました。(うち、オンライン開催 定例会1回、委員協議会1回)
- (2)教育委員会会議以外の活動
・学校訪問を7回、各種行事への出席を3回、総合教育会議(1回開催)への出席、他の都道府県との協議を行いました。

2 成果

- ・定例会のほかに臨時会を積極的に開催し、活発な議論を行いました。
- ・新型コロナウイルス感染症拡大への対応として、オンライン会議システムを活用した教育委員会会議(委員協議会)を開催しました。
- ・教育施策などの重要案件は委員協議会にお

いて継続的に協議した上で、会議の議題として十分な議論を行いました。

3 課題

- ・県民の意向を反映した教育行政を実現するために、今後も教職員をはじめとした関係者との意見交換に努め、教育現場の実態把握等を継続して行う必要があります。

4 対応

- ・教育現場の実態把握や関係者との意見交換の拡充を図るため、視察や情報交換を充実するほか、関係団体主催の協議会等への参加に努めます。

教育施策の推進状況

教育施策の推進状況について、「令和2年度福岡県教育施策実施計画」が定める教育施策の7つの柱ごとにこれを構成する施策の点検及び評価を行っています。また、指標については、「令和2年度福岡県教育施策実施計画」に掲げられた目標値に向けての状況を次の4段階の基準で評価しています。

なお、新型コロナウイルス感染症の影響により、指標の現状値が把握できないものや達成状況の評価がしがたいものは、評価なし(「-」と表記)しています。

◎	既に目標を達成している。
○	目標達成に向けて順調に推移している、または、概ね目標を達成している。
△	目標達成に向けて、取組の強化が必要である。
▲	目標達成のためには、取組の抜本的改善が必要である。

柱1 「学力、体力、豊かな心」を育成する

1 学力の向上

◇確かな学力向上のための取組の推進

【主な取組・事業】

- 福岡県学力向上推進計画に基づく学力向上総合推進事業
・平成29年度以降、福岡県学力調査の対象学年を小5、中1、中2とすることで、途切れなく児童生徒の実態を把握
- 「主体的・対話的で深い学び」推進事業
・「主体的・対話的で深い学び」授業実践講座の実施
- ・福岡県立学校「新たな学びプロジェクト」の実施(研究開発校11校)

【指標】

確かな学力の育成（全国学力・学習状況調査における標準化得点の教科ごとの平均値）

現状値（令和2年度）	目標値（令和3年度）	達成状況
調査中止 ＜参考：R1年度＞ (小) 国語 103.4 算数 100.0 (中) 国語 98.6 数学 99.0	(小) 国語 100以上 算数 100以上 (中) 国語 98.9以上 数学 98.6以上	—

※ 令和2年度の全国学力・学習状況調査は、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い中止

【成果】

・アクティブラーニングの視点からICTを効果的に活用した授業改善や評価方法を研究し、県立学校の「主体的・対話的で深い学び」を推進しました。

【課題】

・福岡県学力調査結果（令和2年9月実施）から、前年度の学習内容、特に算数・数学の定着状況や活用する力に課題があることが明らかになりました。

【対応】

・ICTを活用した個に応じたきめ細かな指導の充実や学習支援員の配置等の体制整備について支援します。

2 体力の向上

◇体力向上のための取組の推進

【主な取組・事業】

- 福岡県体力向上総合推進事業
- ・小・中学校体力向上指導者研修会の実施

【指標】

子どもの体力の向上（全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点平均値）

現状値（令和2年度）

調査中止 ＜参考：R1年度＞ (小) 男子 54.41(53.61) 女子 55.96(55.59) (中) 男子 43.20(41.69) 女子 50.52(50.22) ()は全国平均値	目標値（毎年度）	達成状況
全区分 全国平均以上	—	—

※ 令和2年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査は、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い中止

【成果】

小・中学校における体力向上を推進する教員に対し、体育の授業改善及び子どもの体力向上等に関する研修会を実施しました。

【課題】

子どもの運動習慣をより一層定着させるための取組を推進する必要があります。

【対応】

小・中学校教員を対象とした体力向上指導者研修会の実施や「1校1取組」運動の継続的な実施をとおして体育・保健体育の授業改善を図るとともに、スポーツ実施率向上に向けた啓発ポスターの配布により、子どもの運動の動機付けと習慣化を図ります。

柱Ⅱ 「社会にはばたく力」を育成する

1 多様で特色のある能力や個性の伸長

◇特別支援教育の推進

【主な取組・事業】

- 発達障がい児等教育継続支援事業
- ・ふくおか就学サポートノートの配布、引継の実施割合（令和2年度：72・7％）
- 高等学校等通級指導推進事業
- ・通級指導教員を4校に計12人配置し、高等学校における通級による指導を実施

【指標】

特別支援教育体制の整備（公立の幼稚園・

認定こども園・小・中・高等学校等において、特別な支援が必要であると考えられる幼児児童生徒に対する①個別の指導計画及び②個別の教育支援計画の作成の割合

現状値（令和2年度）	目標値（令和3年度）	達成状況
① 99.3% ② 99.3%	① 100% ② 100%	○

【成果】

各種研修会を通して、早期からの一貫した継続的な支援の必要性や発達障がいの可能性のある幼児児童生徒への支援の重要性を周知し、個別の指導計画及び個別の教育支援計画の作成率が向上しました。

【課題】

・県立特別支援学校の在籍者数が増加するとともに、重度・重複化、多様化しています。

・個別の指導計画及び個別の教育支援計画を、特別な支援が必要な幼児児童生徒全てに作成し、確実に引き継ぐ必要があります。

【対応】

・「県立特別支援学校の今後の整備方針について」及び「県立特別支援学校設置計画」に基づき、県立特別支援学校の整備を進めます。

・個別の指導計画及び個別の教育支援計画の作成・活用を一層推進し、就学前から高等学校段階卒業までの一貫した継続的な支援が実施されるよう、関係機関等との連携の充実を図ります。

柱Ⅲ 「郷土と日本、そして世界を知る力」を育成する

1 郷土の魅力を学び、世界の多様性を理解

◇国際的視野を持つ人材の育成

【主な取組・事業】

○グローバル化に対応した英語教育の推進

- ・英語活動指導員を高等学校に4人配置
- ・ネイティブ英語教員を高等学校に3人配置
- ・外国語指導助手（ALT）の配置・派遣
高等学校56人、小中学校218人（令和3年3月現在）

【指標】

生徒の英語力（CEFR A2レベル相当以上〔英検準2級程度以上〕の資格又は相当する力を有する県立高等学校生徒の割合）

現状値(令和2年度)	49.3%	目標値(令和3年度)	50%	達成状況	○
------------	-------	------------	-----	------	---

【成果】

- ・「聞く」「読む」「話す」「書く」の4技能が高まり、県立高等学校におけるCEFR A2レベル相当以上（英検準2級程度以上）の生徒が増加しました。
- ・英語活動指導員によるイマージョン授業（英語以外の教科を英語で学ぶ授業）を8校で実施し、より実践的な英語力の向上や学習意欲の向上が図られました。

【課題】

- ・英語に関する生徒の4つの技能を総合的に育成するため、英語教員の指導力をさらに高める必要があります。
- ・CEFR A1レベル相当以上（英検3級程度以上）を取得する中学生の割合を向上させる必要があります。

【対応】

- ・英語教員の指導力向上のための研修等を引き続き実施し、英語活動指導員やネイティブ英語教員の配置校において公開授業を実施します。
- ・小中学校教員対象の英語力向上研修を実施するとともに、中学生英語スピーチコンテ

ストの開催等を通して、英語力の高い生徒の育成に努めます。

柱Ⅳ 生涯学習社会をつくる
1 生涯学習・社会教育の総合的推進

◇社会教育活動の推進

【主な取組・事業】

- NPOやボランティア団体との連携・協力の推進
- ・みんなで育もう！ふくおかの子ども育成支援フォーラム（参加者100人）
- 社会教育関係職員の資質向上
- ・市町村社会教育関係職員研修（WEB開催参加者667人）
- ・県社会教育主事等研修会（参加者延べ96人）
- ふくおか社会教育応援隊事業の実施（派遣回数584回）

【指標】

社会教育に関する学習情報提供の充実（ふくおか社会教育ネットワーク）へのアクセス件数）

現状値(令和2年度)	515,461件	目標値(毎年度)	300,000件	達成状況	◎
------------	----------	----------	----------	------	---

【成果】

- ・新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、対面での体験活動等の機会が減る中、体験活動や自宅でできる体験遊びに関する動画コンテンツの配信を行い、児童生徒の事前学習等での活用を促進するほか、体験遊びのきっかけづくりとなる情報を提供することができました。

【課題】

- ・地域の人材育成や課題解決につながる研修

の充実が求められています。

- ・SNSのみの利用者が増加していることや情報収集のためのメディアコンテンツの多様化に伴い、より県民のニーズに応えられるよう情報の発信方法を検討する必要があります。

【対応】

- ・学習情報の提供、学習の場を充実させます。
- ・より多くの県民のニーズに応えられるよう情報収集し、必要な情報を幅広く発信するために、動画コンテンツ等を充実させ、ホームページ等から発信していきます。

柱Ⅴ 県民の文化活動を盛んにする
1 文化の振興

◇県民文化芸術活動の振興

【主な取組・事業】

- 県立美術館の機能の充実
- ・展示会の実施（常設展、企画展、実行委員会展、令和2年度福岡県立美術館所蔵品巡回展「移動美術館展」）
- スクール・ミュージアム事業（アートコース）の実施（6校）
- 「どこでもケンピ」（バーチャル美術館事業）の開設

【指標】

県立美術館の利用（県立美術館の入館者数）

現状値(令和2年度)	62,555人	目標値(毎年度)	160,000人	達成状況	—
------------	---------	----------	----------	------	---

※ 新型コロナウイルス感染症拡大防止措置のため 休館（令和2年2月から5月まで）

【成果】

- ・自宅等にいながら、当館の美術品をじっくり

り鑑賞することができ、子どもたちの学習に役立つサイト「どこでもケンピ」(バーチャル美術館事業)を開設しました。

【課題】

- ・新型コロナウイルス感染拡大の影響により来館者が減少しました。
- ・来館者の安全を図りながら、県民の美術鑑賞の機会の確保や創作意欲を高めていく必要があります。

【対応】

- ・これまで蓄積した県立美術館の財産やノウハウを生かした満足度の高い展覧会を開催し、県民の美術に関する鑑賞・創作活動の更なる促進を図ります。
- ・福岡県美術展覧会(県展)の出品数や集客力を高める取組として、出品しやすしい作品規定の変更を周知し、マスコミとの連携による効果の高い広報、ホームページや新たにSNS等を使った情報発信を行います。

柱VI 県民のスポーツ活動を盛んにする

1 大規模国際スポーツ大会等を契機としたスポーツの振興による地域活性化

◇県民に希望や元気を与える競技スポーツの推進

【主な取組・事業】

- 競技スポーツ振興事業の実施
 - ・選手強化指導者研修会(参加者73人)
 - ・競技力強化事業(41団体)
 - ふくおかアスリート育成強化システムの構築
 - 育成システム整備事業(19団体)
 - ・トップアスリート育成強化事業(対象者54人)
 - ・女性アスリートの県外遠征・主要大会への参加事業の実施(15回)
- 【指標】
競技スポーツの振興(国民体育大会における男女総合成績順位)

現状値(令和2年度)	目標値(毎年度)	達成状況
大会延期 〈参考：R1年度〉 11位	8位	—

※令和2年に開催を予定していた国民体育大会(鹿児島国体)は、令和5年に延期

【成果】

- ・各競技団体は、ジュニアアスリートの発掘から始まる一貫指導システム構築の重要性を再認識し、競技者育成プログラムを策定するとともに、全競技団体で共有しました。
- ・リモート大会の開催やオンラインでの指導者養成事業を行うなど、新たな視点での強化事業を行いました。

【課題】

- ・国民体育大会本大会出場権獲得数が減少しています。
- ・女性アスリートの育成に向けて、指導者の資質向上など取組を充実していく必要があります。

【対応】

- ・国民体育大会常時8位入賞を目指して、強化事業を充実します。
- ・女性アスリートの練習環境の充実を図るために強化拠点の整備や県外遠征等の支援を行うとともに、女性指導者養成のための研修会等を実施します。

柱VII 人権が尊重される心豊かな社会をつくる

1 人権尊重の意識や行動の定着及び人権施策の推進

◇人権教育・人権啓発の推進

【主な取組・事業】

- 個別の人権課題に関する指導方法等調査研究

事業の実施

- 人権教育実践交流会・人権教育指導者養成連続講座
- ・人権教育指導者養成連続講座 年間5回(受講者25人)

【指標】

人権教育の推進(人権教育推進の中核となる指導者養成研修を修了した教員の累計人数)

現状値(令和2年度)	目標値(令和2年度)	達成状況
464人	459人	◎

【成果】

学校や市町村を対象とした研修及び人権教育指導者向け学習資料の中で個別の人権課題に関する情報発信を行い、教職員等の資質向上を図ることができました。

【課題】

若年層教職員の人権意識や知識、指導力等の向上を図り、すべての学校で人権教育が推進されるよう支援を行う必要があります。

【対応】

人権教育に係る指導力等達成目標を踏まえ、教職経験年数や職務に応じ、指導内容を明確にした研修を実施します。

学識経験者意見

○元兼 正浩 九州大学大学院教授

・教育委員会の活動状況について

地教行法第4条5項で、地方公共団体の長は委員の任命に当たっては、委員の年齢、性別、職業等に著しい偏りが生じないように配慮するとともに、委員のうちに保護者である者が含まれるようにしなければならぬとされる。令和3年3月時点で配慮された委員構成になっている。定例・臨時の教育委員会

議とは別に委員協議会（勉強会）の場を設けていることは望ましい。今後もオンライン等を活用した柔軟かつ積極的な委員会活動を求めたい。

なお、令和2年度には学校訪問回数が7回、学校以外における各種行事への出席が3回と少なくなっている。コロナ禍下で致し方ないが、今後は教育委員が教育最前線に向かう機会をもっと増やし、教育長―教育委員会事務局（プロフェッショナル）とは異なる視角、立ち位置で教育現場を見取り、教育委員会会議をリードしていただきたいと願う。

・体力向上のための取組の推進

新型コロナウイルス感染症拡大防止によるとはいえ、成果が研修会実施にとどまっている。コロナ感染拡大防止を理由に長期間休校を余儀なくされた子どもたちの体力不足・格差は深刻なものだと予想される。オリンピック・パラリンピック教育の推進といったレベルでなく、ゆるスポーツのような発想でもっと日常的な取組支援を行い、子どもたちの運動習慣の定着を図りたい。

○伊藤 克治 福岡教育大学教授

・確かな学力向上のための取組の推進

新学習指導要領では、全ての教科の目標と内容が育成すべき資質・能力の3つの柱で整理されるとともに、学習評価が重視されている。今回から観点別評価は3観点になったが、そのうちの「主体的に学ぶ態度」については、文科省からは「粘り強く学習に取り組む態度」と「自ら学習を調整しようとする態度」の二次元で評価することが示されており、これに対応することが全国的に喫緊の課題になっている。幸い、福岡県では「粘り強さ」と「自己調整」の要素が含まれている「鍛ほめ福岡メソッド」が、学校教育のみならず、家庭教育と社会教育にも浸透してい

る。今後、学校教育における「主体的に学ぶ態度」の評価に向けては、「鍛ほめ福岡メソッド」の成果を踏まえて、単元計画に評価を適切に位置づけるカリキュラム・マネジメントが必要になる。このために、「主体的・対話的で深い学び」推進事業をはじめとする各種事業の中で、指導と評価の一体化をさらに進めることが、子供の主体性や学力向上の観点から望まれる。

・ICTを活用した教育活動の推進

コロナ禍の中で、国のGIGAスクール構想の後押しもあり、全国的にICT環境が整備されているが、福岡県でもICT環境が迅速に整備されたことは高く評価できる。授業の質向上はもちろんのこと、PISA（国際学習到達度調査）に代表されるCBT（コンピュータを使った試験方式）が今後増えていくことが予想されるため、児童生徒の情報活用能力の育成につながるICTを活用した授業の推進・改善が望まれる。これに向けて、すでにICTを効果的に活用するための様々な研修や研究が行われていることは高く評価できる。

なお、オンライン授業は、単にコロナ禍や災害時に対面授業ができない時の代替措置ではなく、その特長を生かした授業や教員研修を進めるといふ視点も大切である。特に、所在地が県内の広範囲にわたる高等学校の教員向けの研修では、対面の研修とオンライン研修のベストミックスという視点も必要である。

○大島 まな 九州女子大学教授

・学校、家庭、地域の連携・協働体制の整備

学校運営協議会を設置している学校数が昨年度より70校以上増加している。各教育事務所における関係者の努力あつてのことである。地域学校協働活動とコミュニティ・ス

クルールの一体的推進を拡充していくため、未実施市町村に対して、学校、家庭、地域が連携・協働して取り組むことができる仕組みや人材発掘・育成や取組のノウハウ、その効果、運営方法等の啓発を図る必要があることが課題として示されている。さらなる努力に期待したい。特に、組織を作ること自体が目的ではなく、子どもたちの成長発達のよりよい支援体制がつけられると同時に地域の活性化にも資するという趣旨を、学校と地域の関係者が共有すること、そのためには具体的な教育効果（子どもたちの成長の姿など）や成果（地域課題の解決など）を事例の紹介などを通して提示していくことも大切である。

・社会教育活動の推進

「ふくおかの子ども育成支援フォーラム」で関係者が集い、地域で子どもを育てるさまざまな活動支援について学び合ったこと、「ふくおか社会教育応援隊事業」では、市町村や学校等からの要望に応じて社会教育主事等を派遣し、家庭教育支援や青少年教育等、社会教育に関する情報提供や学習方法の提供を行うなど、コロナ禍においても活動プログラムを工夫しながら派遣し続けることができたことは評価される。今後も多様な県民のニーズを把握することに努めながら企画を工夫し、情報を発信し、幅広い世代の学習者、新規学習者の開拓にもつなげる努力を継続していただきたい。

※報告書の内容は、福岡県のホームページでも公表しています。

(<https://www.pref.fukuoka.lg.jp/contents/tenken-hyoka.html>)



令和3年度 全国学力・学習状況調査の結果概要について 義務教育課

令和3年5月27日に実施された文部科学省の「全国学力・学習状況調査」の結果概要を報告します。

令和2年度は、全国一斉臨時休業の影響を考慮し中止となったため、2年ぶりの実施となりました。また、平成30年度までは、国語、算数・数学について、主として「知識」に関する問題（A問題）、主として「活用」に関する問題（B問題）に区分して出題されていましたが、平成31年度（令和元年度）からは、それらが一体的に出題されるようになっていきます。

1 調査の概要

(1) 調査事項

- 教科に関する調査（国語、算数・数学）
- 質問紙調査（児童生徒の学習や生活の諸側面等、学校における指導方法や教育条件の整備状況等）

(2) 調査の対象

- 小学校第6学年、義務教育学校前期課程第6学年、特別支援学校小学部第6学年
- 中学校第3学年、義務教育学校後期課程第3学年、中等教育学校前期課程第3学年、特別支援学校中学部第3学年

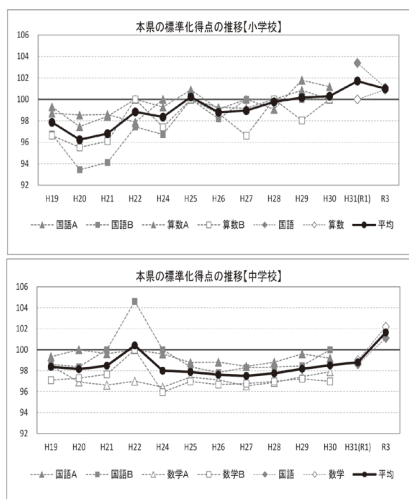
2 教科に関する調査の結果

(1) 各教科区分の※標準化得点の推移

本県（公立）小学校の標準化得点は、国語と算数の2教科の平均が、4年連続で全国の平均より高くなっています。中学校の標準化得点は、国語と数学の2教科の平均が、5年連続で上昇傾向が続いており、今年度は、平成19年度の調査開始以降最高値となりました。また、調査開始以来初めて、小・中学校の全教科区分で全国の平均より高い結果となりました。

※ 標準化得点：全国の平均正答数を100としたときの本県の平均正答数の値

本県の標準化得点の推移



(2) 教科ごとの状況

各教科の設問のうち、次のような成果と課題がみられました。

- ◇…全国的にも、本県においても正答率が70%以上であり、全国平均を上回っている内容
- …正答率が最も低い内容
- …全国平均を下回っている内容

小学校

〈国語〉

- ◇「目的に応じ、話の内容が明確になるようにスピーチの構成を考える」こと
- 「目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約する」こと

〈算数〉

- ◇「速さと道のりを基に、時間を求める式に表すことができる」こと
- 「複数の図形を組み合わせた平行四辺形について、図形を構成する要素などに着目し、図形の構成の仕方を捉えて、面積の求め方と答えを記述できる」こと

中学校

〈国語〉

◇「書いた文章を互いに読み合い、文章の構成の工夫を考える」こと

●「文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつ」こと

〈数学〉

◇「整式の加法と減法の計算ができる」こと
 「データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる」こと

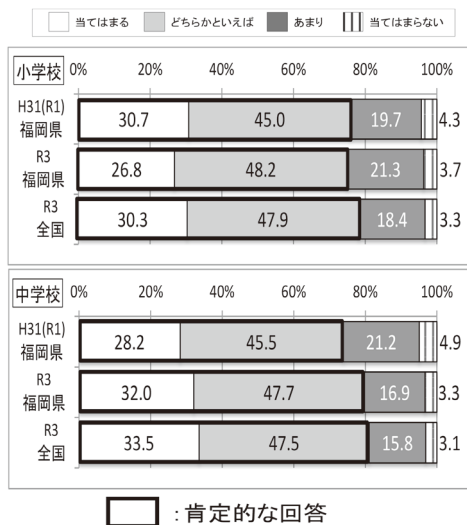
3 質問紙調査の結果

(1) 児童生徒対象の質問紙調査

児童生徒の傾向について次のことがわかりました。

○課題の解決に向けた取組について

課題の解決に向けた取組



□ : 肯定的な回答

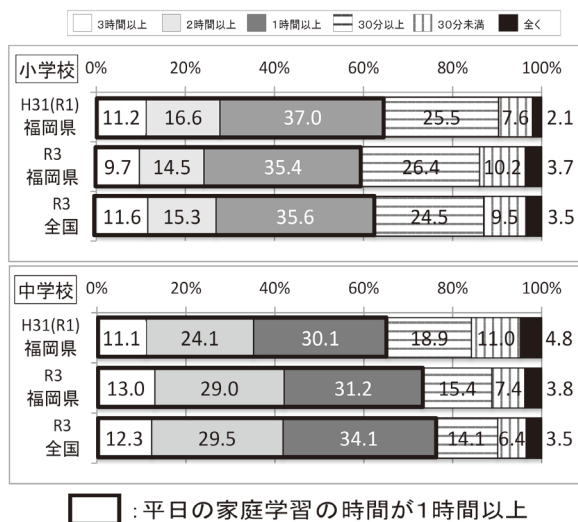
「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う」について

肯定的な回答をした割合を前回と比較すると、小学校は減少、中学校は増加し、全国と比較すると、小学校は3.2ポイント、中学校は1.3ポイント下回りました。

○平日の家庭学習の時間について

「平日の家庭学習の時間が1時間以上」の児童生徒の割合を前回と比較すると、小学校は減少、中学校は増加し、全国と比較すると、小学校は2.9ポイント、中学校は2.7ポイント下回りました。

平日の家庭学習の時間



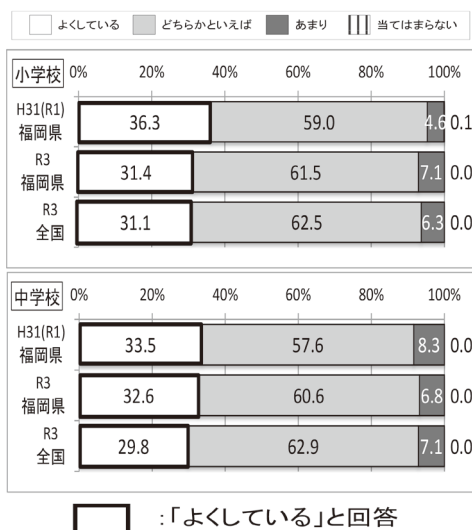
□ : 平日の家庭学習の時間が1時間以上

(2) 学校対象の質問紙調査

校務運営について次のことがわかりました。
 ○検証改善サイクルの確立について

「児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルの確立」について

検証改善サイクルの確立



□ : 「よくしている」と回答

「よくしている」と回答した学校の割合を前回と比較すると、小・中学校ともに減少し、全国と比較すると、小学校は0.3ポイント、中学校は2.8ポイント上回りました。

4 今後の取組

小・中学校ともに学力向上の傾向が見られる要因の一つとして、各市町村教育委員会、各学校が学力向上に向けて検証改善を丁寧に行い、家庭・地域と一体となって取り組んできたことの成果が徐々に表れてきたものと考えています。

今後、県教育委員会では、重点課題研究指定事業や学力向上推進拠点校事業の報告会、コア・ティーチャー授業力向上研修会等において、授業改善や組織的な体制づくり等について学ぶ機会を提供していきます。また、本年度の成果と課題を踏まえた県の取組については、12月に学力調査結果報告書でお知らせします。

来館者に学びとワクワクを——まちづくりの拠点施設として 福智町図書館・歴史資料館 ふくちのち

福智町図書館・歴史資料館

はじめに

福智町は、平成18年3月6日に旧赤池町・旧金田町・旧方城町の三町が合併し誕生した町です。人口は約2万2千人、旧三町ともに炭鉱の町として発展し、国指定伝統的工芸品の^{あがの}上野焼の産地としても知られています。若年層の人口流出が続く中、教育や子育て支援等に力を入れており、平成29年3月19日に、まちづくりの拠点施設として、福智町図書館・歴史資料館「ふくちのち」が開館しました。

1 特色ある「ふくちのち」

当館は、図書館に興味がなかった方でも気軽に立ち寄り、訪れるたびに新たな出会いや発見がある、来館者にワクワクを提供できる特色ある施設です。従来の図書館機能だけでなく、福智町の歴史や文化等を紹介した「歴史資料館」、地元の食材などを使ったベーカリーカ

フェ「としよパン」、レーザーカッターや3Dプリンタなどの最新機器をそろえた「ものづくりラボ」、調理ができる「クッキングラボ」、展示やコンサートが行える「ワクワクワクワ広場」などがあり、「図書館＝静かな場所」という従来のイメージを大きく転換しました。館内では一部を除き私語が禁止されておらず、カフェスペースで会話を楽しむ人、こどもひろばで絵本を読む子どもたち、友達と宿題をしている小中学生、ワークショップやイベント・展示を楽しむ多くの方々などが見られ、来館者が来るたびに新しい楽しみを見つけることができる複合施設となっております。

2 特色あるイベントやワークショップ

「ふくちのち」では複合施設の機能を活かし、今までに多くの特色あるイベント等を行ってきました。

【歴史資料館事業】 九州歴史資料館 ワークショップ	小郡市にある九州歴史資料館ボランティアの方々が講師となり、機織り体験や古代衣装着付体験などを行いました。
【ものづくりラボ事業】 科楽フェスティバル	近隣の高校・大学・企業等がワークショップを行い、子どもたちに科学やものづくりの楽しさを伝えました。
【クッキングラボ事業】 食育講座	町の給食センター調理員と管理栄養士が講師となり、食育の大切さや子どもたちに調理の仕方を教えました。
【ワクワクワ広場】 わくわくコンサート	福智町出身のフルート奏者とピアノ奏者による演奏会を開催しました。また、大型スクリーンに絵本を映し、司書による読み聞かせと生演奏のコラボレーションも実現しました。



科楽フェスティバル たくさんの人が
科学やものづくりを楽しむ

3 学力向上を目指して「ビブリオバトル」の取組

「ふくちのち」で行うイベント等とは別に、学力向上を目指し、町内の中学1年生を対象に、ビブリオバトルを実施しています。ビブリオバトルは、お気に入りの本を紹介しあい、一番読みたい本「チャンプ本」を投票で決める『知的書評合戦』といわれています。ゲーム感覚であるため、中学生にも好評です。福智町が行っている特徴的な進め方は、大学生を巻き込んだ活動を取り入れていることです。まず、中学生が自分で選んだ本を元に、ワークシートを活用しながら発表原稿を作り上げます。その後、生徒たち数人のグループに大学生がアドバイザーとして関わり、生徒たちとの対話を通し

て、発表原稿をブラッシュアップしていきます。そして、作成した発表原稿を元に、最初はグループのチャンプ本、次にクラスのチャンプ本、最後に学年のチャンプ本の決定を行うことで、選ばれなかった生徒も、自分のグループやクラスを最後まで応援できる仕組みになっています。



ビブリオバトル1回目「ふくちのち」に
全員集合

○学力向上につながる効果

- ・多くの本の中から生徒自身が読みたい本を選ぶことにより、日頃本を読まない子どもたちにも、本と触れ合うきっかけを作ることが出来ます。
- ・生徒一人一人とワークシートの記入の仕方や発表の仕方などを話すことにより、読解力や表現力を身に付ける手助けができます。

- ・日頃、なかなか話す機会がない大学生などと接することにより、生徒の視野を広げ刺激を与えることができます。

○大学生の協力

各班に1人〜2人の大学生が付き、生徒に指導・助言を行います。補佐として司書・地域活動指導員等も入ります。大学生の協力はとても大きく、生徒たちにも良い刺激を与えています。福智町近辺には大学がなく大学生と触れ合う機会も少ないことから、直接大学生と話すことにより、将来の進学や展望等を考えるきっかけとなっています。また大学生からも、中学生と接することにより、自分の将来にとって良い経験を経験することができたとの声が多くあがっています。

おわりに

カウンターで来館者を待つ時代は終わりました。「ふくちのち」は、静かに本を読む場所ではなく、福智町で育つ子どもにも積極的な学びの場を提供すると共に、子どもから大人までが気軽に立ち寄り、色々な体験ができ、コミュニケーションが生まれる仕掛けを作る場所です。住民の方々の生活の一部となる、まちづくりの拠点施設として、「ふくちのち」が福智町の起点となるように、今後も企画・運営をしていきたいと考えています。

地域にとって「頼りになる、そして、 なくてはならない存在」の人財育成拠点

福岡県立山門高等学校



はじめに

本校は、令和4年に創立110周年を迎える歴史と伝統のある普通科高校です。卒業生は2万3千人を超え、県内外を問わず様々な分野で活躍しています。現在は、1学年4クラスで、そのうち20名が理数コースに所属しています。「至誠」「信愛」「創造」の校訓の下、「信愛」に結ばれた友情を育み、「創造」力を養い、「質実剛健の気風を尊び、「至誠」の心で将来の国家・社会の有為な形成者となるよう教職員が愛情を持って教育活動に取り組んでいます。しかしながら、少子化や価値観の多様化、社会構造の変化が進む中、「選ばれる高校」となるためには、これまでの伝統に裏付けされた確かな教育活動に加えて、天の時、地の利、人の和を生かしたより一層特色ある教育活動を展開する必要があります。

本校は、みやま市唯一の高校であり、地域か

らの支援も、また寄せられる期待も大きい学校です。そのことから、地域に根差し、地域とともに歩むことが何より大切と考えます。地域の中で、子どもたちを小学校・中学校、そして県立高校と切れ目なく育てることができるよう、「地域連携、地域貢献」を積極的に推し進めています。地域に学び、地域に貢献する様々な活動を通して、地域を支える人財を育成しています。そして、地域の方々に「山門高校があつてよかった」と思ってもらえるよう教育活動の充実を図っています。

1 令和元年度からの取組

令和元年度からの「地域連携・地域貢献」の取組の一部を紹介します。

○上庄小学校閉校記念式典の中で書道部が書道パフォーマンスを披露

○上庄小学校の児童が本校運動会のプログラムの一つとして演舞を披露

○夏季休業中に、

みやま市内の全

ての小学校で、

有志の生徒が3

日間児童の勉強

指導（サマース

クール）を実施



小学生に優しく丁寧に！
（サマースクール）

○開小学校にて放送部が児童に「放送、音読の技術」を指導

○東山中学校の書道部と本校書道部の交流会を実施

○みやま市高校生海外派遣交流事業として、ドイツ連邦共和国フンスリュック郡への派遣事業に生徒2名、引率教員1名参加

○東京オリンピック事前キャンプ選手団（グアム、ミクロネシア連邦）の応援として、みやま市の筑後広域公園プールを練習会場にしていた選手に対して、書道部と生徒会が激励の横断幕を披露、各選手に色紙を贈って交流

○筑後広域公園

フィットネス

エリアオープ

ン記念式典に

て放送部が司

会進行、吹奏

楽部がファン

ファーレ等の

演奏を担当、

またこけら落

としての記念試

合にサッカー

部が出場



小川知事（当時）から激励を受ける
吹奏楽部



放送部による
司会進行



筑後広域公園フィットネスエリア
オープン記念式典

○第13回みやま市民駅伝大会に教職員チームと
陸上部が初参加

○大川市の筑後川橋（仮称）ケーブル定着を祝
う会において放送部が司会進行

○下庄八幡宮八朔祭

において吹奏楽部

が演奏

○みやま市清水山荘

大感謝祭にて放送

部が司会進行

○みやま市の社会教

育委員と「みやま市活性化」に関する意見交
換会に生徒会執行部が参加



下庄八幡宮八朔祭における
吹奏楽部演奏

2 今後の取組

地元行政（市、市教委）の協力もあり、市内
の小・中・高連携が進み、急速に「将来みやま
市を支える人財を市内小・中・高が連携して、
切れ目なく育てていこう」という機運が醸成さ
れてきました。当然、地域の行事に参加する生
徒は、みやま市内の生徒ばかりではなく、柳川
市、大川市、筑後市、大木町や大牟田市などの
生徒もいます。そのような生徒にも、この地域
との経験を生かして、将来それぞれの地元の貴
重な人財、ひいては福岡県のそして日本の有為
な人財となってほしいと願っています。将来、

「社会」を担う一人として、一足早く社会に触
れることで、夢や目標そして、志を明確にし、
その実現に向けて努力する生徒を育てるため
に、今後も、本校の特色の一つとして地域連携
を推進していきたいと思えます。

3 今後の課題

令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大
で、多くの連携行事が中止となりました。一刻
も早い終息を願うとともに、コロナ禍において
も可能な新しい連携の在り方を考えていくこと
が必要と考えています。地域連携の形は、生徒
会や部活動、学年、有志と様々ですが、同じ生
徒の参加に偏らないようクラス単位や学年一斉
で活動するなどの工夫をして、多くの生徒が貴
重な体験ができるように計画的に地域連携を実
施していきます。

おわりに

山門高校は、将来「地方創生」の原動力とな
る人財の育成拠点としての県立高校であり続け
たいと考えています。そのためにも、「地域に
根差すこと」「地域の話題になっていくこと」
「地域から頼りにされる存在となること」を大
切にしながら「普通科」高校としての特色化を
推し進めていきます。

令和元・2・3年度福岡県重点課題研究指定・委嘱事業研究 小・中9年間をつないで取り組む学力向上

義務教育課

1 本重点課題研究の概要

(1) 重点課題設定の背景

これまでの全国学力・学習状況調査の結果から、本県の児童生徒の学力の課題として、中学校段階で学力が伸び悩んでいる状況があり、その背景には小・中学校間で取組状況等に差が見られることが挙げられています。こうした課題を解決するために、小・中学校の教員が義務教育9年間の全体像を把握し、系統性・連続性に配慮した教育活動に取り組むことが求められます。

(2) 目標

小・中連携による学力向上に向けた推進体制を構築することで、9年間を見通した学力向上の方策の在り方を究明します。

2 研究指定・委嘱校の実践

(1) 直方市教育委員会（直方南小学校・直方北小学校・直方西小学校・直方第三中学校）

● 研究主題

確かな学力を身に付けた児童生徒を育てる
小・中連携

1 育てたい資質・能力の育成を目指す9年間の
カリキュラム・マネジメント

直方第三中学校区では、学習過程を6つの段階に分け、各段階の児童生徒の学ぶ姿を位置付

け、「主体的・対話的で深い学び」を具現化して授業を構想しています【図1】。
具体的には、1単位時間の中で目指す児童生徒の姿を重点化することにより、授業が「主体的・対話的で深い学び」になっているかを検証しながら実践を積み重ねています。研究3年次となる今年度は、「対話的な学び」と「深い学び」の実現に重点を置き、研究に取り組んでいます。



【図1】「主体的・対話的で深い学び」を具現化した姿と学習過程

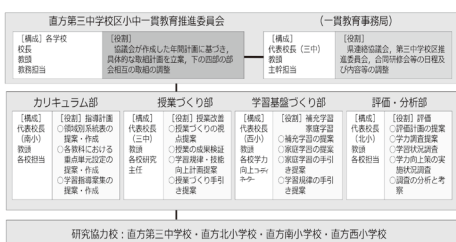
また、各教科の重点単元の系統を明らかにした表（ジョイント・カリキュラム）【図2】を作成し、小・中学校での学びをつなぐ取組を行っています。

具体的には、学力調査の結果などをもとに、児童生徒がつまづきやすい学習内容の接続を明らかにし、小・中9年間を見通した重点単元を設定しています。それらについて、各学校で共通理解を図り学習指導に活かすようにしています。

II 小・中連携による学力向上の推進体制づくり

直方第三中学校区では、小・中一貫教育推進委員会と4つの部会（カリキュラム部、授業づくり部、学習の基盤づくり部、評価・分析部）を設置し、研究推進体制を整えています【図3】。

具体的には、小・中一貫教育推進委員会で検討した研究の方針等を具現化し、各校での共通実践につなげやすくするために、各部の代表を



【図3】直方第三中学校区研究推進体制

(ア)学力に関する調査や検査等の結果において、得点率の低い内容や文字(イ)9年間の学びにおいて、習得しておくことが重要である内容★
(ウ)思考・判断・表現させる場面が望ましい内容◎

	6月	7月
3	4. いろいろなかたち★	3 8.かずしらべ◎
7	ふくしゅう(1)	5 ふくしゅう(3)
	5. ふえたりへつたり	1 ふくしゅう(4)
	6. たしざん(1)★◎	7
	ふくしゅう(2)	1
	7. ひきざん(1)★◎	10

【図2】ジョイント・カリキュラムの一部

4校の校長が担い、各学
校担当者が構成委員とな
っています。各部署で
作成した取組内容を各
校でも検討した上で、
小・中合同研修会等で提
案しています。



小・中合同研修会
の様子

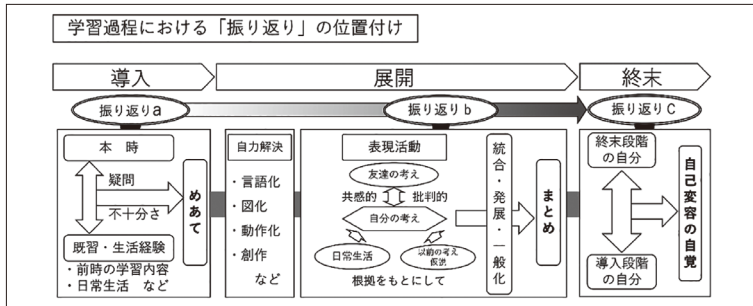
●研究主題
(2) 広川町教育委員会（中広川小学校・広川中学校）

深く学ぶ児童生徒の育成

1 育てたい資質・能力の育成を目指す9年間の
カリキュラム・マネジメント

中広川小学校
では、児童生徒
が自己の学び
の変容を自覚
できるように
するために、学
習過程に3つ
の振り返りを
位置付けた授
業づくりを、
小・中学校で共
通して取り組
んでいます【図
4】。

具体的には、導
入では、児童生
徒が既習内容
やこれまでの
生活経験等を
振り返り、本時
の学習と比較
しながら、疑問
や不十分さを
見だし、めあ
てをつくりま



【図4】1単位時間の学習過程における3つの振り返りの位置づけ

理科カリキュラム

学年	重点単元および指導のねらい		
小3	2月『形と重さ』 ・物の形に着目して、数種の物の形を並べて、重さを変えながらの体感を基に、重さを比較しながら調べる。	2月『体積と重さ』 ・物の体積に着目して、複数の種類の身の回りにはある物の体積を同じにして、手ごたえなどの体感を基に、重さの違いを比較しながら調べる。	
小4	6月『空気の状態』 ・閉じた空気の状態を押し縮めたり、膨らませたりする力に着目して、体積と圧力とを関係付けて、体積や圧力と空気の密度変化を調べる。	6月『水の性質』 ・閉じた空気や水に力を加えたときの体積や圧力に着目して、体積や圧力と水の密度変化を比較しながら調べる。	12月『風まわり方の違い』 ・金風、水及び空気の流れ、高やしたりしたときの体積の変化に着目して、関係付けながら風の変化に伴う体積の変化を調べる。
小5	10月『重さの保存』 ・物が水に溶ける量や全体の重さに着目して、溶かした後の水溶液の重さの変化を比較しながら調べる。	11月『物が水に溶ける量の環境』 ・物が水に溶ける量に着目して、水の温度や量といった条件を制御しながら、物の溶ける量を調べる。	
小6	10月『気体が溶けている水溶液』 ・水に溶けている物に着目して、水溶液の性質や働きを多面的に調べる。	10月『水溶液』 ・物質の水への溶解を粒子のモデルと関連付けて考える。	
中1	9月『物質の状態変化』 ・物質の状態変化における体積や質量について、粒子のモデルと関連付けて理解する。	10月『物質の溶解』 ・物質の水への溶解を粒子のモデルと関連付けて考える。	
中2	4月『物質の成り立ち』 ・物質の分解から原子や分子について知り、物質の分子式や化学反応式を理解する。	6月『いろいろな化学変化』 ・化合や還元などの化学変化を、原子・分子モデルや化学反応式を用いて考える。	6月『化学変化と物質の質量』 ・化学変化の前後の質量について、原子・分子モデルや化学反応式を用いて考える。
中3	10月『水溶液とイオン』 ・電解質水溶液に電流が流れる理由を、イオンと関連付けながら考える。	10月『化学変化と電流』 ・金属と電解質水溶液を用いた実験を通して、電流の仕組みとその制御性をイオン・電子を関連付けて考える。	11月『酸・アルカリとイオン』 ・酸とアルカリの性質や水溶液と水酸化イオンによることを知り、酸とアルカリによって起こる反応をイオンに関連付けて考える。
めざす姿	<ul style="list-style-type: none"> ・物質の状態変化や化学変化、酸・アルカリや電池の仕組みなどを原子・分子・イオンのモデルと関連付けて微視的に捉えることができる。 ・生活の中で見聞きする化学的な現象や情報について、原子・分子・イオンの知識と関連付けて微視的に考えることができる。 		

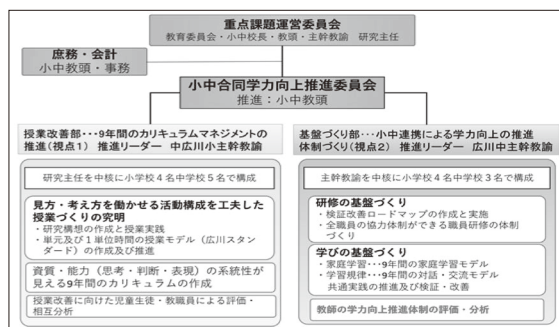
【図5】年間カリキュラム一覧表（理科）

5 具体的には、小・中学校の重点単元の系統、各単元の指導の時期や指導のねらい、小・中9年間で育成を目指す資質・能力を一覧表に整理し、全教職員が9年間を見通した指導を意識できるようにしています。

す。展開では、自己の解決過程を振り返り、他者の考え等と比較し、それらを統合・発展、一般化して、まとめをつくります。終末では、獲得した知識・技能や自己の学び方等を振り返り、自己の学びの変容を自覚します。【図5】また、各教職員の年間カリキュラム一覧表【図5】を作成しています。

6 具体的には、各部署は、各学校の主幹教諭が推進リーダーとなり、研究内容や方法を具体化

II 小・中連携による学力向上の推進体制づくり
中広川小学校・広川中学校では、9年間のカリキュラム・マネジメントを推進する「授業改善部」と小・中連携による学力向上の推進体制づくりを行う「基盤づくり部」の2つの部会を中心に、研究推進体制を構築しています【図6】。



【図6】中広川小学校・広川中学校の研究推進体制



小・中合同研修会の様子

して、各学校での共通実践につなげるとともに、各校の意見を取りまとめ推進委員会へ提案するなど、出された意見を反映した取組になるようにしています。また、各推進リーダーが連絡を密に取り、各部署の課題を踏まえた上で計画的に研修会を位置付けるなどとして、各校の教員の研究への参画意識を高めることができるように工夫をしています。

3 重点課題研究指定・委嘱事業の成果

重点課題研究指定・委嘱事業の成果等については、義務教育課の各種資料のページ <http://gimu.ku.ed.jp> で公開しています。

【研究発表会（事業最終年度）の期日】
直方市教育委員会
広川町教育委員会
11月10日（水）
11月4日（木）

地域とつながり社会に開かれた学校を目指して

福岡県立築城特別支援学校



はじめに

本校は、福岡県北東部の築上町に位置し、知的障がい、肢体不自由の2つの教育部門にそれぞれ小学部、中学部、高等部をおく京築地区唯一の特別支援学校です。

知的障がい教育部門 198名、肢体不自由教育部門34名、計232名(令和3年7月現在)の児童生徒が京築地区の2市5町から通学しています。

本校では、多様な児童生徒の教育的ニーズに応えるべく、校内研修を充実させるとともに、教育相談や地域支援セミナー、学校行事や進路指導等の取組を通して地域の方々とのつながりをもつことを大切に考えています。

一人一人の教育的ニーズに応え、地域に信頼される学校を目指した本校の取組の一部をご紹介します。

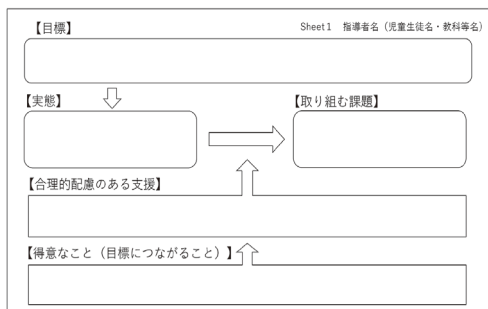


学校風景

1 学校研究の取組

平成30年から3年間、様々なキャリアを持つ教員がともに学び合う研修体制(築城スタイル)をとり、合理的配慮の提供を意識した授業づくりを研究してきました。

(1) ともに学び合う研修体制(築城スタイル) 具体的には、個別の指導計画を基に「Sheet1(目標設定)」、「Sheet2(指導案)」を作成し、公開授業・授業参観を行いました。Sheet1・2作成においては、研究グループによる協議会で意見交換を行い、目標設定や学習内容、指導方法などについて合理的配慮の視点から熟議を重ねました。各研究グループにはベテラン教員をアドバイザーとして配置し、専門的知見を基に協議を活性化させました。



Sheet1の様式

2 「おおぐす祭」について

(2) 成果と課題
協議会では、幅広い経験年数の教員同士が様々な意見交流を行い、合理的配慮の提供について考えを深めたり指導のヒントを得たりすることができました。また、研修後のアンケートでは、多くの教員が「教員同士で学び合い、専門性を高めることができた」と回答しました。今後は、「ともに学び合う教師集団」を継続していくことが課題です。

福岡県特別支援学校活性化推進事業の一環として、例年10月下旬から11月上旬の間に実施している学校祭です。主な内容は、学習発表、作品展、販売活動です。児童生徒の社会参加への意欲や態度を養うとともに、本校の教育活動を広く地域の方々を知っていただくことをねらいとしています。



展示作品

合唱や合奏、劇、演舞など、各学部・学年で趣向を凝らし、学習の成果を発表します。販売活動では、中学部、高等部の生徒が作業学習を通して制作した木工品、陶芸品、紙工品、織物、農作物、焼き菓子等を販売します。

毎年、保護者や地域の方々の多数の来場があり、称賛や励ましの言葉をいただいています。児童生徒は活動の成果を認められ、喜びや達成感を感じることができています。

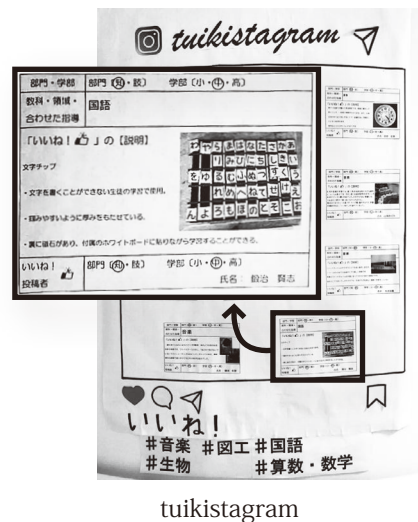
令和3年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、保護者のみの参観としますが、多くの地域の方々に来ていただけるを楽しみに、今後も、児童生徒の主体性が発揮され、本校の教育活動を発信できる大切な行事として充実させていきたいと考えます。

3 地域支援セミナー

今年で開催16年目になる地域支援セミナーは、地域の幼稚園・小中高等学校の教員、特別支援学校の教員、保護者、関係機関を対象に、地域のニーズに応じた講演や教材・教具の展示、特別支援学級及び通級担当者の相談会を行い、地域におけるセンタ－的機能の充実を目指しています。

地域支援セミナーでは、本校独自の取組「tuikistagram（いいね）」を展示しています。これは、本校教員が校内で見つけた他の教員の教材・教具や学習環境等の工夫に興味をもったり参考にしたいと感じたりしたものを紹介する取組です。地域支援セミナーで紹介することで特別支援教育をより身近に感じてもらうことができます。また、本校教員にとっても、普段の取組を互いに認め合うことができ、貴重

な学びの場となっております。今後も一人一人の専門性を高め、地域と共に特別支援教育の推進に向けて取り組んでいきたいと考えます。



4 ついきモデル「感じのいい人」の取組

本年度より、系統性のあるキャリア教育の充実を図るため、「ついきモデル「感じのいい人」」の取組を始めました。

多くの進路先と連携する中で、生徒たちが離職することなく働き続けるためには、多くの方の支えが必要であることを実感しています。そこで、社会人として好感がもてる態度や振る舞いを身に付けた児童生徒を育てたいと考えました。

そこで、進路指導課が中心となって提案した、「ついきモデル」の8項目を高等部卒業までに身に付けることを目標に設定しています。その中でも特に「挨拶」に全校で取り組んでいます。朝の会や作業学習で挨拶練習を取り入れたり、高等部での挨拶練習の様子を小学部の

児童が見学したりしています。また、児童生徒会と連携して、全校集会の呼びかけや挨拶運動の取組をしています。少しずつですが、校内で気持ちのよい挨拶が交わされるようになり、地域の方からも「とてもよく挨拶ができますね」とお褒めの言葉をいただくようになってきました。これからも、「ついきモデル」の改善を重ね、地域から愛される児童生徒の育成を目指していきたいと思えます。

ついきモデル「感じのいい人」



ついきモデル「感じのいい人」 抜粋

- 「はい」
・名前を呼ばれたとき
・指示などを受けたとき
- 「ありがとうございます（ました）」
・人が自分のために何かしてくれたとき
・ほめられたとき
- 「すみません（でした）」
・注意を受けた時、謝罪を指摘された時
- あいさつ
・自分から、誰にでも
・笑顔と声にした適切な声の大きさ
- 話すとき、聞くときの姿勢
・姿勢を伸ばす
・相手の目を見て話さない
・肩つち（うなずき）

おわりに

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、従来どおりの行事や研修を行うことが難しい面もありますが、その中でも今できることを工夫しながら、より充実した学校教育を目指して日々の教育活動に取り組んでいます。

より一層地域や社会に貢献できる学校づくりと将来の自立と社会参加を目指す心豊かな児童生徒の育成に努め、本校の校訓「げんきで、なかよく、たくましく」を学校全体で実現していきたいと思えます。

全国大会を振り返って

体育スポーツ健康課

1 福岡県高等学校体育連盟

令和3年度全国高等学校総合体育大会「輝け君の汗と涙 北信越総体2021」が「走れ北信越の大地を」とべ「北信越の大空へ」のローガンのもと、7月24日から8月24日まで、福井・新潟・富山・石川・長野の北信越5県と和歌山県で開催されました。本県からは30競技33種目、参加校83校、選手763名・監督215名、総勢978名が参加しました。

8月13日、サンドーム福井での総合開会式は、新型コロナウイルス感染症の影響により縮小開催ではありませんが、飯塚高校サッカー部3年選手2名と石本月洋会長他、本部役員2名の計5名が参加しました。

ここでは、本県選手団で顕著な活躍を果たした団体及び個人の紹介をします。

◆【剣道競技】

女子団体では、中村学園女子高校が決勝戦で

八代白百合学園

高校（熊本）に

代表戦の末、見

事勝利を収め、

インターハイ5

大会連続5度目

の優勝を成し遂

げました。

◆【アーチェリー競技】

男子団体で

は、柏陵高校が

27年振り4回目の優勝を果たしました。

◆【なぎなた競技】

女子団体では、須恵高校が決勝に進出し、2

位入賞を果たしました。

◆【バスケットボール競技】

男子では、福岡大学附属大濠高校が準決勝で

今大会を制した中部大第一高校（愛知）に敗



中村学園女子高等学校

れ、3位入賞を果たしました。

◆【水泳競技】

競泳では、東福岡高校が男子学校対抗で2位入賞を果たしました。男子個人では、100mと200m背泳ぎで竹原秀一選手（東福岡高2年）が優勝を果たし2冠を達成しました。100m自由形で原空輝選手（東福岡高3年）が2位、小山陽翔選手（東福岡高3年）が3位入賞を果たしました。

◆【柔道競技】

個人では、73kg級・竹市裕亮選手（大牟田高2年）は2位、60kg級・松永烈選手（福大大濠高2年）が3位入賞を果たしました。

◆【バレーボール競技】

男子では、東福岡高校が準決勝で今大会を制した鎮西高校（熊本）にフルセットの末、惜しくも敗れ、3位入賞となりました。

◆【陸上競技】

トラック学校対抗で東福岡高校が2位入賞、

男子1600mリレーでは東福岡高校が優勝を果たしました。

個人では、男子5000m競歩で古賀文也選手（大牟田高3年）が優勝、400mハードルで中島陽基選手（東福岡高3年）が2位入賞を果たしました。女子5000m競歩で柳井綾音選手（北九州市立高3年）が優勝、走幅跳で中尾優花選手（中村学園女子高3年）が3位入賞を果たしました。

◆【テニス競技】

女子団体では、第一薬科大学付属高校が決勝に進出し、2位入賞を果たしました。

◆【自転車競技】

女子個人では、池田瑞紀選手（祐誠高2年）が500mタイム・トライアルで2位入賞・2kmインディヴィデュアル・パースユートで2位入賞、ロード・レースでも3位入賞を果たしました。

◆【ボクシング競技】

学校対抗では、東福岡高校が2位入賞を果たしました。

個人では、ライトウェルター級・松久優作選手（東福岡高3年）が優勝、バンタム級・中山颯太選手（東福岡高3年）が2位入賞、ピン級・山下心一選手（東福岡高2年）が3位入賞、ライトフライ級・中山紘一選手（東福岡高

1年）が3位入賞、フライ級・河本蓮音選手（東福岡高3年）が3位入賞を果たしました。

◆【弓道競技】

女子団体では、祐誠高校が決勝に進出し、2位入賞を果たしました。

◆【ヨット競技】

女子団体では、コンバインドで福岡第一高校が3位入賞を果たしました。

◆終わりに

昨年度中止となった全国総体が本年度は開催され、高校生アスリートにとって最高の舞台が戻ってきました。しかしながら全国的に感染が拡大している新型コロナウイルスの影響により原則無観客や制限下での開催となり、選手の熱い戦いを応援することができず、非常に残念な思いをしました。本県選手は、優勝数8（団体3校・個人5名）、入賞数64（団体18校・個人46名）という成績を残し、本県代表としての誇りを胸に、持てる力を最後まで全力で発揮してくれました。

終わりに、本県選手団に温かい声援と様々な面で支援・協力を賜りました全ての関係者に心から感謝を申し上げますとともに、今後も県高体連活動の充実・発展を図り、本県高校スポーツの競技力向上と普及・振興に努めたいと思います。

2 福岡県中学校体育連盟

中学校運動部活動の頂点を目指す令和3年度全国中学校体育大会夏季大会が、本年度は関東ブロックにおいて8月17日～26日の10日間に行われ、「関東の蒼空（そら）へと放て 君の夢」のスローガンのもと、各地で熱戦が繰り広げられました。

今年は、本県から13競技278名の選手が県大会、九州大会を勝ち抜き、本県代表として、全国の舞台に立ちました。

以下、本県の選手の活躍を紹介します。

（予選RⅡ予選リーグ・決勝TⅡ決勝トーナメント）

◆【ソフトボール】

九州大会を2位で勝ち上がった早鞆中が出場し、1回戦を突破しましたが、2回戦で敗れました。

◆【バスケットボール】

九州大会を制した西福岡中（男子）と折尾中（女子）、菊陵中が男女で出場しました。西福岡中が異例の4校同時優勝で3度目の全国制覇を成し遂げました。菊陵中は、決勝T1回戦で敗れました。

女子は、折尾中が決勝に駒を進め、四日市メリノール学院中（三重）に接戦の末、敗れはし

たものの、堂々の準優勝でした。また、菊陵中は、3位入賞を果たしました。

◆【卓球】

団体戦では、県大会を11年連続で制している中間東中（男子）と、県大会を6年連続で制している中間東中（女子）、九州大会3位の門司中（女子）が出場しました。中間東中は男女とも、決勝T1回戦で敗れました。門司中（女子）は、惜しくも予選R敗退となりました。

個人戦では、男女8名の選手が出場しましたが、上位入賞者はいませんでした。

◆【柔道】

団体戦では、山田中（男子）、敬愛中（女子）が出場しました。敬愛中は決勝Tに進出し、決勝戦で大成中（愛知）を下し、見事優勝を果たしました。

個人戦では、男女それぞれ8階級の16名が出場しました。女子44kg級の篠崎選手（沖学園中）、女子57kg級の本田選手（敬愛中）、女子70kg級の福嶋選手（敬愛中）が全国の強豪を次々と破り、優勝しました。男子73kg級の秋吉選手（大刀洗中）が準優勝、女子40kg級の米井選手（田原中）、女子70kg超級の山口選手（敬愛中）が3位入賞を果たしました。

◆【剣道】

団体戦では、須恵中（男子）と、老司中（女子）が出場しました。須恵中、老司中ともに、準決勝で敗れ、3位でした。

個人戦では、男子の関選手（須恵中）が決勝Tに進出し、決勝戦で、神崎中（佐賀）の川内選手に競り勝ち、見事優勝を果たしました。また、男子の中尾選手（古賀中）、女子の菊池選手（老司中）がベスト8、女子の吉良選手（老司中）がベスト16でした。

◆【バレーボール】

九州大会優勝の福岡女学院中（女子）、準優勝の宮ノ陣中（女子）の2校が出場しました。宮ノ陣中は、決勝T1回戦で敗れました。福岡女学院中は、決勝T2回戦で敗れました。

◆【ソフトテニス】

団体戦では、九州大会優勝の吉富中（男子）が出場しました。惜しくも2回戦で敗れました。

◆【バドミントン】

団体戦では、九州国際大付属中（男女）と、九州大会3位の能古中（男子）の3校が出場しました。能古中が3回戦で敗れ、ベスト8でした。

個人戦では、男子ダブルスの小林選手・仲里選手（能古中）がベスト8進出、女子ダブルスの本田選手・東野選手（九国大附中）が3位入

賞を果たしました。

◆【水泳競技】

全国標準記録を突破した15名が出場しました。男子平泳ぎ1000mで牟田選手（平野中）が6位、男子背泳ぎ1000mで中原選手（志免中）が6位、男子バタフライ1000mで牧選手（百道中）が5位、男子個人メドレー400mで石井選手（城南中）が2位入賞を果たしました。

◆【相撲】

団体戦で、県大会を制した川崎中が出場しましたが、決勝T1回戦で敗れました。

◆【陸上競技】

全国標準記録を突破した61名が出場しました。女子1500mで川西選手（永犬丸中）が、女子1000mハードルで谷中選手（八屋中）が見事優勝を果たしました。

◆【新体操】

個人戦女子に松崎選手（古賀北中）、五嶋選手（篠栗北中）が出場し、華麗な演技を披露してくれましたが、上位入賞とはなりませんでした。

◆【体操競技】

団体では、九州大会を制した、板櫃中（女子）が出場し、9位に入りました。また個人でも男女6名の選手が出場し、残念ながら上位入賞者はありませんでしたが、力強く、美しい演技を見せてくれました。

3 福岡県高等学校野球連盟

本県高等学校野球連盟では、硬式・軟式ともに夏の選手権大会、春秋の九州地区大会のそれぞれ県予選を中心に、招待試合、その他支部大会の大会運営や指導者研修会、審判講習会等の企画・運営などを行っています。昨年来のコロナ禍で、各種の研修は凍結した状態、昨年のように春・夏の大会が中止に追い込まれることはなかったものの、県内4支部の大会も一部中止にするなど、部員たちには練習の成果を発揮する場を十分に提供できていないのではないかと感じることもありました。

また、応援部の皆さんにも発声を制限したり、ブラスバンドの演奏を禁止したり（今夏から録音音源の再生は認めています）今まで高校野球を応援してくれた生徒の皆さんに十分な活動の機会を与えることができないのもとてもつらいことです。

その中で行った、第103回選手権福岡大会。また、本県勢がベスト8に進出した第93回選抜高校野球大会を中心に1年を振り返りたいと思います。

まずは、第93回選抜高等学校野球大会ですが、福岡大学附属大濠高校が昨秋の第147回九州地区高校野球大会で見事準優勝を果たし出

場しました。

福岡大学附属大濠高校と東海大学付属福岡高校がベスト8に進出した第89回大会、さらに筑陽学園高校がベスト8に進出した第91回大会に続いて、ベスト8に進出しました。エースの毛利君を中心に粘り強く戦い、長崎県の大崎高校、沖縄県の具志川商業高校を接戦のすえ破り、4年ぶりの8強入りを果たしました。しかし、準々決勝では優勝した神奈川県東海大学付属相模高校に敗れ、成果と同時に全国の壁を痛感した大会でもありました。



福岡大学附属大濠高校

そして迎えた第103回全国高等学校選手権福岡大会ですが、昨年の新型コロナウイルスによる大会中止を挟んで2年ぶりの開催となりました。しかし、冒頭に書いたように、様々な制約、そして全校が一堂に会す開会式は中止とし、各球場の開幕試合の2校のみ参加の開始式で大会を始めました。

大会は、準決勝で飯塚高校に大逆転勝利した西日本短期大学附属高校がエース大嶋君の準決

勝の激戦の疲れを感じさせない好投で真颯館高校に快勝し、11年ぶり6回目の優勝を飾りました。

また、県立勢では県大会に春日高校・福岡工業高校・香椎高校・八女高校・香椎工業高校・八女工業高校・新宮高校・小倉工業高校・小倉東高校・北筑高校・東筑高校・玄界高校・育徳館高校・門司学園高校・戸畑高校が進出しました。

甲子園本番では未曾有の長雨で西日本短期大学附属高校は計7日間も試合が順延し、宿舍スタッフの新型コロナウイルス



西日本短期大学附属高校

ス感染による宿替えなどのアクシデントにも見舞われました。やっと行われた試合では、大嶋君の好投もむなしく、プロ注目の東京都の二松学舎大学附属高校エース秋山君の前に完封を許してしまいました。またしても全国の壁を感じる試合でした。

最後に、軟式は筑陽学園高校が夏の県大会、続く北部九州大会を制し、3年ぶりに夏の全国選手権大会出場を果たし、県勢としては久々のベスト4に進出と素晴らしい成果を挙げました。

志を立て、教育の未来をリードする 専門研修「福岡教師塾」について

福岡県教育センター

はじめに

福岡教師塾は、本県の教育をリードするにふさわしい人材の育成を目指した研修として、平成23年度にスタートしました。今年度で節目となる第10回を迎え、創設以来大切にしてきた「志を立て、以て万事の源となす」の理念のもと、集合研修又はオンライン研修により、確実に研修を実施しています。

本稿では「福岡教師塾」の概要と今年度の研修状況について紹介します。

1 福岡教師塾とは

【目的】

「福岡教師塾の理念と教職員育成指標に基づいた福岡県の教育をリードできる人材の育成を目指して、本県の教育に関する課題に広い視野をもって柔軟に対応できる資質・能力の向上を図る」ことを目的としています。そのため、中堅教諭等資質向上研修を修了した主幹教諭、指導教諭、教諭及び養護教諭を受講対象としてお

り、福岡県教職員育成指標における発展①～②のキャリアステージに該当する研修を構成しています。

【研修内容】

福岡教師塾では、研修の目的を達成するために、年8回の日程で次の内容による研修を実施します。

(1) 視野や視座を広げる研修

各界の専門的知識・技能を有する講師の講演や演習等により、最新の教育的知見、企業等の「経営戦略」や「人材育成」等に関する研修を通して視野を広げるとともに、学校教育の課題解決に向け、新たな視座から方策を提案できる資質・能力の育成を図ります。

(2) 共創する研修

教育に関する様々な課題に主体的かつ柔軟に対応するために、異校種の塾生同士が今後の学校教育の在り方等について議論したり、塾生が自ら研修を企画・運営したりする研修を通して、課題解決の方策を共に創り出そうとする資質・能力の育成を図ります。

(3) 在籍校の課題解決に資する研修

塾生が研修で得た知見を生かし、福岡県（在籍校）の教育課題や経営課題の解決に資するために必要な創造力、企画力、実践力等の資質・能力の育成を図ります。

2 福岡教師塾が目指す塾生像

「福岡教師塾」では、目指す塾生の姿を「塾生五つの心得」により示しています。

- 一、「福岡教師塾」塾生としての自覚とともに、自らを鍛え、磨き、高めようとする気持ちをもち続けること
- 二、自らの考えを他者に問い、また、異なる考えを真摯に受け止め、自らの考えを相対化する自修自得の学びを構築すること
- 三、積極的に他者と話し、聞き、接することで、教師としての協働性を醸成し、ともに学び合う喜びを味わうこと
- 四、教師塾で得た知識（知恵）を実の場で活用し、その有用性を感得するという「実学」を重視すること
- 五、教育への熱い情熱を抱き、確固たる信念に基づく教育観を確立すること

3 今年度の内容及び主要な講師陣

外部講師として、教育、科学技術、伝統文化、スポーツ、国際貢献活動、企業経営等の分野を中心に日本や地域社会・国際社会の第一線で活躍されている方々を招聘し、講師を交えた演習等の時間を設定しています。また、異校種の塾生同士が議論する「熟議」を計画的に位置付け、塾生自らが研修を企画・運営する研修を充実させています。研修成果は、塾生全員による発表や塾生自身の所属校への提言等を行うことで、還元しています。課題へじっくりと取り組み、塾生同士が交流しながら共に創り上げていく過程を体験することや塾生自身の発信を重視している点は、福岡教師塾ならではの大きな特色であり魅力であるといえます。



第1回～4回の講師陣及び研修の様子

《令和3年度福岡教師塾年間計画》

【外部講師】

福岡教師塾の魅力①
多彩な講師陣

7	6	5	4	3	2	1	回
学校財務マネジメント の今求められる人的・物的資源等の活用	積極的な生徒指導を実現する学校経営の保護者・関係機関を巻き込むには	経営戦略としての人材育成とダイバーシティ推進	学校で起きうる法律相談 学校事故から働き方改革まで	魅力のアピール！ 自校の広報戦略を立てよう！	教育の未来 「はやぶさ2」プロジェクトを通して考えること	学校教育に期待すること	主なテーマ
愛知教育大学 教授 風岡 治 氏	准教授 奥村 賢一 氏	株式会社西部技研 代表取締役社長 限 扶三郎 氏	清水法律事務所 弁護士 清水 幹裕 氏	ソフトバンクホークス 広報室室長 井上 勲 氏	JAXA 宇宙航空研究開発機構 宇宙科学研究所はやぶさ2プロジェクトチーム 主任研究開発員 三樹 裕也 氏	九州電力株式会社 代表取締役会長 瓜生 道明 氏	主な講師

【企画・運営研修A・B】

福岡教師塾の魅力②
塾生による主体的な研修

7	6	5	4	3	2	1	回
企画・運営研修B② 塾生による、塾生のための研修を実践しよう！	企画・運営研修A⑤ 理想の学校を伝え、共有し、語り合おう！	企画・運営研修A④ 実現に向けた取組を語り合おう！	企画・運営研修B① 塾生による、塾生のための研修構想を立てよう！	企画・運営研修A③ 目指す職員像を語り合おう！	企画・運営研修A② 校訓（目指す児童生徒像）を語り合おう！	企画・運営研修A① 教師としての自分史・未来史を描こう！	主なテーマ

最後に、多くの仲間と「志」を育て、共創してきた本研修は、塾生及び塾生の所属長からも高い評価を得ています。教育の未来をリードする人材育成を目指し、時代のニーズに合った研修方法を取り入れながら、今後も喜びや価値を実感できる研修として工夫改善して参ります。

▼これまでの研修内容の詳細
福岡県教育センターホームページから確認できます。

<http://www.educ.pref.fukuoka.jp/>

one.html3/pub/default.aspx?c_id=325



いつでも、どこでも楽しめる！ 福岡県立図書館

福岡県立図書館

昨年からの新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う緊急事態措置の実施等により、当館も幾度となく臨時休館せざるを得ない状況が続いています。

利用者が閲覧室で自由に本を手にとって読むことができない期間が続く今、当館ではホームページやSNSなどを介した情報発信の強化に取り組んでいます。

今回は、デジタルライブラリと子ども図書館の取組を御紹介します。

1 福岡県立図書館デジタルライブラリの御案内

福岡県立図書館ふくおか資料室では、令和3年3月にホームページ全体をリニューアルしました。中でも「福岡県立図書館デジタルライブラリ」（以下「デジタルライブラリ」）については、利用者が様々な切り口で資料を探すことができ、検索の過程で未知の資料に出会い、新しい発見につながるよう工夫しました。また、それぞれの画像をどなたでも自由に利用できるようオープンデータにしました（寄託資料を除く）。ここでは、主な特色や変更点、新しい取組みについて御紹介します。

(1) アクセス経路

「テーマ別検索」

デジタルライブラリのトップページ画面からは、「シーボルト資料」「近世以前のふくおか」「近代以降のふくおか」「福岡県立図書館の歴史」「映像・録音資料」のテーマ別に資料を探すことができます。古い地図と現在の地図とを重ねて表示したり、明治時代から太平洋戦争終戦後までの変遷を地図でたどったりと、デジタルならではの新機能も用意しました。ぜひお楽しみください。

「地図からみる」

福岡県下の自治体ごとに、その地域に関連した地図・絵図・絵葉書が表示され、資料をスムーズに探すことができます。

「タイムラインからみる」

資料を江戸・明治・大正・昭和の時代ごとに括り、発行年順に並べており、お探しの資料と併せて福岡県の歴史を読み取ることができます。「ランダムな一覧からみる」

ページを開くたびに自動でピックアップされた資料が表示され、先入観に捕らわれることなく、興味を引く画像を閲覧することができます。

(2) 自由に使えるオープンデータ

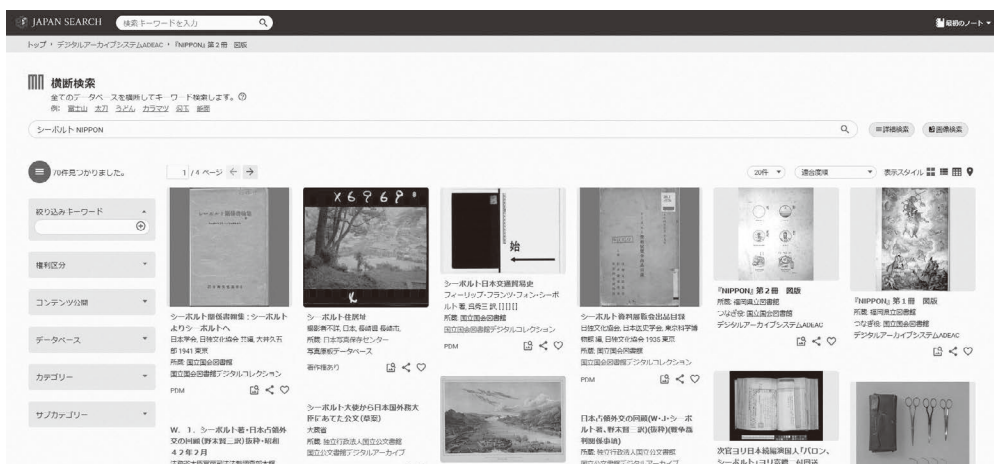
これまで、デジタルライブラリの画像を出版物への掲載やテレビ等での放映、パネルや教材等の作成などで利用する場合は、事前に当館への申請手続きが必要でしたが、これを廃止しました（寄託資料を除く）。CCライセンス*を採用し、利用物に「福岡県立図書館所蔵」と表示することを条件に、どなたでも自由に利用できるようにしました。国内外問わず、多くの方々へアクセスしていただき、ビジネスや学校現場をはじめ様々な場においてデジタルライブラリ資料を活用していただければと考えています。



* 「CCライセンス」とは、クリエイティブ・コモンズが提供する著作権に関する意思表示の国際的なルールです。最も自由度の高いCCBYを設定。

(3) 「ジャパンスーチ」との連携

国立国会図書館が運用する「ジャパンスーチ」(<https://jsearch.go.jp/>)と新たに連携し



ました。ジャパンスーチは、国の文化機関をはじめ、図書館・博物館・美術館・地方自治体や大学などが保有する様々な分野のデジタルアーカイブと連携し、多様なコンテンツをまとめて検索・閲覧・活用できるプラットフォームです。当館のデジタルライブラリ資料と他の機関が保有する資料との比較検証などが容易にできるようになりました。

このように、特定の資料を探すだけではなく、新しい資料の発見や当館以外の資料ともつながり、さらにパネルや教材などにも自由に活用できる、新しくなったデジタルライブラリをぜひ体験してみてください。

2 福岡県立図書館子ども図書館の紹介 動画について

福岡県立図書館子ども図書館では、令和2年度に「おうちで楽しめる子ども向けリンク集」と題して、インターネット上で読むことのできる児童文学作品の紹介や、工作やパズルなどを公開しているサイトなどを紹介したリンク集を作成しました。これは、臨時休業のために自宅で過ごす時間が長くなっていった小学生などを対象に、読書の機会の確保や自宅学習の支援を目的としたものです。

令和3年度も引き続き外出の自粛などが求められたことから、新たに「おうちで遊べる子ども向けお楽しみページ」を作成しました。このページでは、クイズやぬりえのコーナーのほか、ペーパークラフトを公開しているサイトのリンク集を御覧いただけます。

この他に、子ども図書館をよりよく知っても

らうための紹介動画を制作しました。これは子ども図書館閲覧室の絵本や読みものなどのコーナーや、情報ルームやおはなしのへやなどの設備について、クイズを交えながら紹介したものです。公開から約2か月で視聴回数は100回を超え、好評をいただいています。なお、この動画は福岡県立図書館のYouTube公式チャンネルで視聴することができます。



新型コロナウイルス感染症の収束が見通せない状況が続く中、福岡県立図書館としては今後も引き続きホームページやSNS等を介して情報発信に力を入れていきたいと考えています。

問い合わせ先…
デジタルライブラリについて

福岡県立図書館ふくおか資料室

TEL092(641) 1126

FAX092(641) 1127

子ども図書館紹介動画について

福岡県立図書館総合サービス室子ども図書班

TEL092(641) 1161

FAX092(641) 1192

コロナ禍における体験活動事業の開発 「家族」を対象としたキャンプ体験事業

福岡県立社会教育総合センター

はじめに

昨年度からの新型コロナウイルス感染症の影響により、当センターを始め県内の青少年教育施設を利用した宿泊体験学習が激減しており、子供たちの自然体験活動の場と機会が失われていきます。

その反面、外出自粛の影響で、家族でのキャンプやソロキャンプなど、野外や自然の中で過ごすキャンプ体験の需要が高まっており、様々なメディアにも取り上げられています。

そのような現状を鑑み、子供たちの体験活動の場と機会を創出するため、昨年度は県内の県立社会教育施設の職員が学校や地域に出向き、児童生徒に直接体験活動の指導や、指導者に対し、体験活動の意義や方法の指導等を行う「ふくおか体験活動出前隊」を立ち上げ、更に今年度は、「家族」を対象とした体験活動、キャンプ体験の機会を提供する、新たな事業を二つ立ち上げました。

一つは、日帰りでの野外調理体験事業「はじめてのアウトドア！ ENJOYファミリークック

キング♪～入門編～」（全三回）、もう一つは、キャンプ初心者向けの家族を対象とした「ファミリークッキング基礎講座」（全二回シリーズ）です。どちらの事業も、多数の申し込みがあり、改めて、野外体験活動やキャンプ活動へのニーズの高さを感じています。

1 「はじめてのアウトドア！ ENJOYファミリークッキング♪～入門編～」（全三回）

日程	9:30	10:00	10:30	14:30
はじめのつどい <small>※目標・日程説明</small>	親子でチャレンジ！ <small>※新調理・火おこし体験</small>	「アウトドアクッキング」 <small>※食器・片付け時間含む</small>		振り返り <small>アンケート記入</small>
目標設定の活動	挑む活動			振り返る活動

【資料】活動プログラムと「鍛ほめ福岡メソッド」の位置づけ

豊かな自然の中、家族と協力して調理することを通じて、家族との絆を深め、調理する喜びや楽しさを味わう機会を提供する日帰りの事業です。「家族で褒め合う一日にしよう」を合言葉とし、はじめのつどいで本事業の主旨やねらいを参加者に伝えるようにしました。さらに「鍛ほめ福岡メソッド」の三つの活動、

「目標設定の活動」「挑む活動」「振り返る活動」をプログラムに位置づけ、参加者が目標をもって取り組み、達成感を味わえるような構成にしました。

① 第一回「野外で本格BBQ！」

（令和3年5月2日開催）

キャンプならではの鉄製調理器具、ダッチオーブンやスキレットを使った「ローストビーフ」と「ジャーマンポテト」づくりに挑戦しました。参加者は、調理の内容はもちろん、調理器具にも関心が高く、「一度、使ってみたかった」という声が多く聞かれました。



また、薪割りをしたり、火をおこしたりと子供たちが初めての体験に少しとまどいながらも、家族で楽しそうに活動する姿が印象的でした。

② 第二回「最高！パン&アヒージョ作り」

(令和3年7月4日開催)

第二回は、ダッチオーブンでの「パン」づくり、スキレットでの「アヒージョ」づくりに挑戦しました。パンは生地をこねるところから始め、家族で交代したり、掛け声をかけたりするなど、協力して作業をする姿がとても印象的でした。

当日は気温も高く、かまどの熱も加わり、『熱い』作業となりましたが、焼き上がったパンを見たときには、歓声があがっていました。



両日とも、参加者からは、「コロナ禍に家族で野外活動ができ、有意義な一日を過ごせた」「子供が率先して行動する姿がみられて、よかった」という感想をいただくなど、好評を得ることが

できました。

第三回は、12月5日に「メリークリスマス・丸焼きチキン」を開催予定です。

2 「ファミリーキャンプ基礎講座」

(全二回シリーズ)

キャンプの基本的なスキルとマナーを体験しながら学ぶことを通して、自然体験活動の意義や公共のマナー、自然環境の大切さを身につけるとともに、キャンプを楽しむ機会を提供する事業です。本事業を通して、野外での活動や自然体験に関心を持ってもらい、今後の意欲につなげてほしいと考えています。

講師に、九州共立大学スポーツ学部助教の花田道子先生を招き、キャンプの良さやマナーなど、豊富な経験や体験を交えた講話や助言をいただきながら、テント設営、薪割り、火おこし、野外調理など様々な体験をしました。

第一回は、あいにくの悪天候のため、当センターの体育館を本会場として実施となりました。「ペグを打って固定する」など本格的なテント設営はできませんでしたが、家族で手順を確認しながら、テントをたてることができました。その後、火おこし体験や昼食を兼ねた野外調理体験を行い、最後に第二回の実施に向けて、オ



リエンテーションを行いました。今回は、参加家族の皆さんと本格的なキャンプを実施する予定です。

「ファミリーキャンプ基礎講座」第一回の参加者アンケートでも、「見る、聞くではなく、実際にやってみることが大事ということを実感しました」「短い時間に多くのことを学ぶことができ、満足しました」という感想をいただくなど、好評を得ることができました。

おわりに

両事業ともアンケートだけでなく、直接参加者から、コロナ禍の中で、家族で野外活動を楽しめたことを喜ぶ意見や、「また家でもやってみます」といった好意的な意見を多く聞くことができました。

今回の事業だけで終えるのではなく、家族にとって野外活動が持続的なライフワークの一つとなるように支援していきたいと改めて感じました。

また、そのことが、子供達の野外体験不足の解消の一助にもなると信じ、今後も体験を通じた学びを参加者に提供できるように事業を展開していきたいと思えます。

お知らせ

福岡県立社会教育総合センター

「みんなで育もう！ふくおかの子ども育成支援フォーラム」のお知らせ

社会教育総合センターでは、『新しい出会い』と『新しいつながり』をあなたへをテーマとして、家庭教育・子育て支援、体験活動支援等の学習や交流を行います。今だからこそ改めて家庭教育・子育て支援の在り方についてみんなで考え、参加者同士のネットワークをつくりませんか。ご参加をお待ちしています。

期 日：令和3年12月11日（土）
時 間：12時50分～16時20分予定
会 場：福岡県立社会教育総合センター
全体会：山口県岩国市川下中学校区家庭教育支援チームの提案発表

分科会：4団体による実践発表

対 象：子どもの育成に関わる個人や団体、行政担当者、学
校関係者、保護者、民生委員・児童委員等
小学生以上を対象とした「子どもプログラム」や乳幼児の
託児有（※どちらも参加費100円程度）※要予約
定 員：先着120名
※チラシ及び申込み方法については当センターのホームペ
ジでご確認ください。

「問い合わせ先」

福岡県立社会教育総合センター 研修・情報室
TEL092 (947) 3512
FAX092 (947) 8029
ホームページ <http://www.fsg.pref.fukuoka.jp/center/index.html>

福岡県立少年自然の家「玄海の家」

玄海 Thanks Day

「Genkai Open Garden」

「玄海の家」では、施設開放事業として「玄海 Thanks Day
「Genkai Open Garden」を開催します。工作体験、昔遊び体

験、ニユースポーツ体験など、わくわくするような体験活動
を用意して、みなさんのお越しをお待ちしております。ぜひ
ご参加ください。

期 日：令和3年11月23日（火・祝）10時30分～15時30分
会 場：福岡県立少年自然の家「玄海の家」
対 象：どなたでも（要申込）
内 容：創作活動コーナー、自然体験コーナー、チャレンジ
コーナー等

※詳しくはホームページをご覧ください。
※新型コロナウイルス感染症の感染状況によって中止の場合
があります。

「問い合わせ先」

福岡県立少年自然の家「玄海の家」
〒811-3501 福岡県宗像市神湊1276
TEL 0940 (62) 2511
ホームページ：<http://www.fsg.pref.fukuoka.jp/genkai/>

九州歴史資料館

● 特別展「九州山岳霊場遺宝

―海を望む北西部の山々から―

内 容：九州の北西部には、宝満山や若杉山、四王寺山、浮
嶽・雷山・脊振山、多良岳や雲仙など、名だたる霊
山があります。本展ではこれらの霊山やゆかりの場
に伝わる仏像や神像、出土品など、山岳霊場の遺宝
の数々が一堂に会します。今回は特に九州ならではの
特徴である大陸との交流の痕跡を色濃く残す筑
前・肥前に焦点を絞って紹介します。



佐谷観音堂十一面観音立像

開催日：令和3年10月9日（土）～12月5日（日）
開催時間：9時30分～16時30分（入館は16時00分まで）
休館日：月曜日（祝日・振替休日の場合はその翌日）
観覧料：有料
入館の際は体温測定・マスク着用・手指消毒・連絡票記入に
ご協力ください。

「問い合わせ先」

九州歴史資料館 学芸調査室 広報普及班
〒833-0106 小都市三沢5208-3
TEL 0942 (75) 9501
FAX 0942 (75) 7834
ホームページ：<https://kyuteki.jp>

サイエンスラボふくおか 福岡県青少年科学館

新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、休館又
は各種教室・イベント等を中止・内容等を変更する場
合があります。最新の情報は、ホームページでお知らせし
ます。
また、スマートフォンやパソコンからの来館予約シ
ステムを導入しています。ご来館の際は、ホームページか
ら事前予約をお願いします。

おもしろサイエンスフェア

■ 楽しいイベントがいっぱいの特別な3日間

〔期 日〕 11月20日（土）、11月21日（日）、11月23日（火・祝）
〔参加費〕 無料（ただし、入館料は必要）
〔内 容〕 九州サイエンスラボのかず先生による特別で素敵なサ
イエンスショーの他、科学館を巡るクイズラリーや
科学工作、小さなお子様向けのファミリープラネ
タリウムなど楽しいイベント盛りだくさんの3日間で
す。一部予約が必要な場合があります。

ファミリープラネタリウム



〔日 時〕 ①11月13日（土）11時00分～11時40分
②11月20日（土）10時00分～10時40分
〔対 象〕 どなたでも
〔参加費〕 一般620円、児童・生徒無料
〔定 員〕 各80名
〔受付開始〕 ①10月13日（水）②10月20日（水）
〔内 容〕 小さなお子様向けの楽しいプラネタリウムです。クイ
ズをしたり、星や星座のお話を聞いたりして、家族み
んなで楽しむことができます。

ものづくり工房

- スペースロボ7 (中級)
- スマホシネマ (中級)



■スペースロボ7 (中級)

〔期 日〕 12月18日(土)
〔時 間〕 ①10時00分～12時00分 ②13時00分～15時00分
〔対 象〕 小学3年生～中学生
〔参加費〕 2,300円
〔定 員〕 各10組(1組2名まで)
〔受付開始〕 11月18日(木)
〔内 容〕 太陽電池や充電電池(電気二重層コンデンサ)にためた電気で動くロボットをつくりまます。組みかえで7タイプのロボットに変形することができます。

■スマホシネマ (中級)

〔期 日〕 1月15日(土)
〔時 間〕 ①10時00分～12時00分 ②13時00分～15時00分
〔対 象〕 小学3年生～中学生
〔参加費〕 2,000円
〔定 員〕 各10組(1組2名まで)
〔受付開始〕 12月15日(水)
〔内 容〕 スマートフォンの画面をレンズで拡大したり、スピーカの振動を検知して音量を増幅したりすることができるスマホシネマをつくりまます。

星と音楽の夕べ

■クリスマスコンサート



〔期 日〕 12月18日(土)
〔時 間〕 18時30分～20時00分(18時00分開場)
〔対 象〕 小学生以上(未就学児の入場はご遠慮ください。小学生は保護者同伴)
〔参加費〕 一般620円、児童・生徒310円
※定員・出演者については、HPでご確認ください
〔受付開始〕 11月18日(木)
〔内 容〕 プラネタリウムで「星空巡り」と「生演奏のコンサート」をお楽しみいただけます。きらめく満天の星のもとで、心地よい音楽をゆっくり楽しむ…。そんな贅沢な時間を味わうことができます。

サイエンス教室

- 铸造名人による表札づくり体験教室
- 手づくり乾電池教室



■铸造名人による表札づくり体験教室

〔期 日〕 12月4日(土)
〔時 間〕 ①10時00分～12時00分 ②11時00分～13時00分 ③13時00分～15時00分 ④14時00分～16時00分
〔対 象〕 小学1年生～中学生 (保護者同伴)
〔参加費〕 500円
〔定 員〕 各6組 ※保護者同伴でご参加ください。
〔受付開始〕 11月4日(木)
〔内 容〕 铸造の工程を学び、铸型をつくらせて、アルミニウムを铸造してオリジナルの表札をつくりまます。

■手づくり乾電池教室

〔期 日〕 12月11日(土)
〔時 間〕 ①10時30分～12時00分 ②13時30分～15時00分
〔対 象〕 小学1年生～中学生(小学3年生以下は保護者同伴)
〔参加費〕 200円
〔定 員〕 各12組(1組2名まで)
〔受付開始〕 11月11日(木)
〔内 容〕 電気を発生する仕組みや電池の安全な使い方を学び、キットを用いて乾電池をつくりまます。

市民天体観望会

- きらめく「すばる」と上弦の月を楽しもう
- 「オリオン大星雲」と木星を楽しもう

■「オリオン大星雲」と木星を楽しもう

〔期 日〕 12月11日(土)
〔時 間〕 19時00分～20時00分
〔会 場〕 福岡県青少年科学館 1階コスモシアター、4階天体観測広場、5階天体観測室
〔対 象〕 どなたでも(中学生以下は保護者同伴)
〔定 員〕 12組(最大48名)
〔参加費〕 無料
〔受付開始〕 11月27日(土)
〔内 容〕 プラネタリウムでの星空解説の後、屋上で天体望遠鏡を使った星の観察を行います。
(天候不良時でも、星空解説は行います。)

■「オリオン大星雲」と木星を楽しもう

〔期 日〕 1月8日(土)
〔時 間〕 19時00分～20時00分
〔会 場〕 福岡県青少年科学館 1階コスモシアター、4階天体観測広場、5階天体観測室
〔対 象〕 どなたでも(中学生以下は保護者同伴)
〔定 員〕 12組(最大48名)

- 〔参加費〕 無料

〔受付開始〕 12月25日(土)
〔内 容〕 プラネタリウムでの星空解説の後、屋上で天体望遠鏡を使った星の観察を行います。
(天候不良時でも、星空解説は行います。)

プログラミング教室

■簡単なプログラミングをしよう



〔期 日〕 1月8日(土)
〔時 間〕 ①10時00分～12時00分 ②13時30分～15時30分
〔対 象〕 小学3年生～中学生(保護者同伴)
〔参加費〕 300円
〔定 員〕 各9組(子どもと保護者の2人で1組)
※子ども一人のみの参加は不可
〔受付開始〕 12月8日(水)
〔内 容〕 子どもと保護者の2人1組で教育版レゴマインドストームEV3を用いて、用意したコースをスタートからゴールまで進むことができるように、タッチパッドを用いてプログラミングを行います。

科学工作教室

〔期 日〕 毎週日曜・祝日※11月21日(日)、11月23日(火・祝)は「おもしろサイエンスフェア」のため、内容が異なります。
〔時 間〕 ①11時00分～12時00分、②14時00分～15時00分
〔会 場〕 福岡県青少年科学館 2階実験室
〔対 象〕 どなたでも
〔参加費〕 100円
〔定 員〕 各24組
〔内 容〕 簡単な科学工作(CDこまなど)を行います。

【問い合わせ先】

福岡県青少年科学館
TEL 0942 (37) 5566
FAX 0942 (37) 3770
ホームページ <http://www.science.pref.fukuoka.jp/>



このマークのある教室や催しは、来館予約システムとは別に予約が必要です。受付開始日の9時30分から電話または直接来館の上、先着順に受け付けます。
教室や催しに参加する場合、参加費のほかに入館料が必要です。ただし、土曜日は高校生以下の入館料は無料です。また、市民天体観望会の入館料はどなたも無料です。

四王寺山経塚出土品

(重要文化財・宇美八幡宮)



写真1 銅製経筒



写真2 褐釉経筒

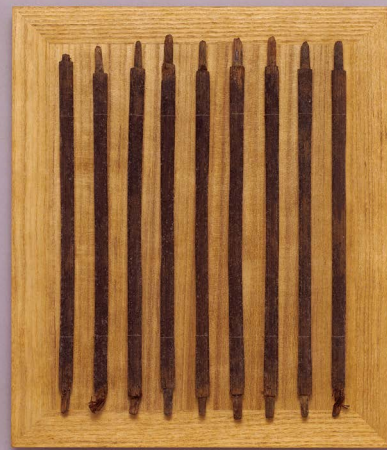


写真3 経軸

四王寺山は、「四王寺県民の森」として森林浴や夜景の人気スポットとして親しまれていますが、あわせて史跡散策を楽しむこともできます。『日本書紀』に記されている古代山城の大野城跡があり、今から一三五〇年前の飛鳥時代に築かれた土塁や石垣、倉庫跡をみることができます。さらに奈良時代には四天王寺という寺院が建立され、四天王像が安置されました。四王寺山の山名は、この四天王寺に由来しています。今は寺院の建物も仏像も残っておりませんが、その山頂には毘沙門堂があり今も祈りの山として人びとの信仰を集めています。

今回紹介する展示品は、その毘沙門堂の周辺から昭和二年（一九二七）に出土した経筒と経典の軸木です。経筒とは経典を納めた容器のことをいい、上の写真のように青銅製のもの（写真1）や中国製の焼き物（写真2）を用いたものなどがあります。平安時代の終わり、人びとはお釈迦様の教えである経典を後世に伝えようと経筒を土中に埋納して経塚を造営しました。それは十一〜十二世紀の日本において、お釈迦様の教えが伝わりにくい「末法」の世という暗黒時代が到来すると信じられていたからです。

通常、経典自体は永い年月の間に朽ちてしまいましたが、この経塚では経典を巻いていた軸木九本（写真3）が奇跡的に残っていました。経塚に埋納される経典の多くが法華経八巻と開経・結経各一卷の計十巻ですので、経軸はそのうちの九巻分のとみられます。

毘沙門堂周辺では、全部で八基の経塚が発見されました。経塚は四王寺山の山内各所に造られたとみられていますが、この毘沙門堂経塚がその中心的な場所であり、おそらく四天王寺の中核となる建物もこの周辺にあったと考えられます。

四王寺山経塚出土品は、令和三年十月九日（土）〜十二月五日（日）開催の九州歴史資料館特別展「九州山岳霊場遺宝―海を望む北西部の山々から―」において展示されます。